
調査年報 28

平成 27 年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター



千歳市 イカベツ 2 遺跡 土坑墓 P-11 (縄文時代後期後葉)



千歳市 根志越 5 遺跡 枝材集中 III BC-6 (アイヌ文化期)



厚真町 オッココ1遺跡 北側盛土 遺物出土状況（縄文時代前期前半）



厚真町 上幌内5遺跡 全景



木古内町 札苺7遺跡 盛土遺構 断面



木古内町 札苺7遺跡 盛土遺構 出土土製品・石製品



木古内町 幸連3遺跡 H-7柱穴 琥珀製品出土状況



幸連3遺跡 琥珀製垂飾



幸連4遺跡 竪穴住居跡群

目 次

口絵

目次

北海道史略年表

平成27年度の調査

1	調査の概要	1
2	調査遺跡	
	長沼町南九号線遺跡	4
	千歳市トプシナイ2遺跡	6
	千歳市イカベツ2遺跡	10
	千歳市根志越5遺跡	16
	厚真川上～中流域の発掘調査	20
	厚真町オコッコ1遺跡	22
	厚真町富里3遺跡	28
	厚真町幌内6遺跡	29
	厚真町幌内7遺跡	30
	厚真町厚幌1遺跡	31
	厚真町厚幌2遺跡	34
	厚真町オニキシベ3遺跡	36
	厚真町上幌内4遺跡	40
	厚真町上幌内5遺跡	42
	下川町上名寄8遺跡	44
	根室市別当賀一番沢川遺跡	48
	木古内町札苺7遺跡	52
	木古内町泉沢6遺跡	56
	木古内町幸連3遺跡	58
	木古内町幸連4遺跡	62
3	現地研修会の報告	68
4	協力活動及び研修	70
5	平成27年度刊行報告書	72
6	組織・機構	73
7	職員	74

北海道史略年表

本州の時代区分		年代 (西暦)	北海道の時代区分		平成27年度調査遺跡および掲載遺跡の主な時期
明治～平成		A. D. 1900	(近代・現代)		(上名寄 8)
江戸時代			近世	アイヌ文化期	根志越 5 トブシナイ 2
室町時代			中世		富里 3 厚幌 2 幌内 6
鎌倉時代					
平安時代		A. D. 1200	擦文文化期		厚幌 1 オコッコ 1 トブシナイ 2
奈良時代		A. D. 800	オホーツク文化期		
古墳時代					
弥生時代		A. D. 300	続縄文時代		
縄文時代	晩期	B. C. 300	縄文時代	晩期	幌内 7 別当賀一番沢川 富里 3
	後期			後期	トブシナイ 2・イカベツ 2 札苅 7
	中期	B. C. 2000		中期	別当賀一番沢川 幸連 3 幸連 4 厚幌 1 厚幌 2 オニキシベ 3 上幌内 4 上幌内 5
				前期	根志越 5 厚幌 1 幸連 3 幌内 6 札苅 7 南九号線
	前期	B. C. 3000		前期	厚幌 2 幸連 4 幌内 7 オコッコ 1
	早期			早期	トブシナイ 2 泉沢 6 イカベツ 2 上名寄 8?
草創期	B. C. 7000	草創期		上名寄 8?	
旧石器時代		B. C. 13000	旧石器時代		
		B. C. 20000			
		B. C. 30000			

平成27年度の調査

1 調査の概要

今年度は、道内6市町に所在する19遺跡で発掘調査を実施した。このうち8遺跡は昨年または昨年以前からの継続調査である。発掘調査を工事原因別に見ると、国土交通省北海道開発局の各開発建設部が実施する道路整備が4市町8遺跡、遊水地整備が1市1遺跡、土地改良（導水路）が1町6遺跡、河川改修が1町1遺跡であり、北海道胆振総合振興局建設管理部が行う厚幌ダム建設に伴う調査が1町3遺跡である。調査を行った遺跡に関しては、順次整理作業を進めているが、今年度、整理作業のみを行ったのは2市4町16遺跡である。

以下、調査成果を時期順に略述する。各遺跡の特徴的な事項を示し、時期の重複する遺構は始まりの時期あるいは主体とみられる時期を記述する。なお、遺構名の（ ）内の数字は員数であるが、時期や性格の確定していないものも多いので、数字はあくまでも現段階のものである。

旧石器時代 今年度の調査では遺構・遺物とも検出していない。

縄文時代 早期 千歳市イカベツ2遺跡で曙式期の竪穴住居跡（6）やその一括土器、千歳市トプシナイ2遺跡では東釧路Ⅳ式期以降の小型の竪穴住居跡（1）などを検出した。厚真町上幌内4遺跡でも東釧路Ⅳ式、木古内町泉沢6遺跡では東釧路Ⅲ式～中茶路式土器が出土している。

土器が出土せず時期の確定はできないが、下川町上名寄8遺跡では、黒曜石や珪化岩の剥片、石核、頁岩製の大型スクレイパーが出土している。

前期 木古内町幸連4遺跡C地区で海成段丘に展開した、前期後半円筒土器下層b・d式期の竪穴住居跡（24）や土坑・廃棄場などからなる集落跡が検出され、大量の遺物が出土している。特に高位面に構築された竪穴は、現在の地表面でも窪みが残る大型住居や、この掘り上げ土の下に存在した中型～小型のものが、切り合い関係や廃棄場形成などと複雑な様相を見せていた。また、大型住居廃絶後にはフラスコ状土坑（12）などが掘り込まれている。調査は来年度も継続する。

厚真町オコッコ1遺跡では、台地頂部を削平し斜面に盛土した遺構を南北2カ所で確認した。盛土以前には北に竪穴住居跡（3）、両盛土末端部に土坑墓（各1）が存在した。土坑墓には屈葬人骨が残り、つまみ付きナイフが副葬されていた。削平部にも竪穴住居跡（3）や土坑（8）、小土坑群がみられた。千歳市トプシナイ2遺跡では網文式期、イカベツ2遺跡、厚真町幌内7遺跡、木古内町泉沢6遺跡でも少量の前期の遺物を確認した。

中期 木古内町の幸連3遺跡では焼失住居を含む竪穴住居跡（9）や土坑、焼土、遺物集中区域からなる集落跡を確認した。幸連4遺跡C地区では前期の竪穴住居廃絶後の窪みを利用した住居跡（3）がみられた。札苅7遺跡でも竪穴住居跡（1）のほか、後期にかけてのフラスコ状などの土坑（36）、焼土（11）を検出している。泉沢6遺跡でも少量の遺物を確認した。

厚真町では上幌内4遺跡や厚幌1遺跡で円筒土器上層式期、オコッコ1遺跡では円筒土器上層式・北筒式・煉瓦台式各期の遺物を確認、オニキシベ3遺跡や幌内6遺跡でも少量の遺物がみられた。千歳市根志越5遺跡では竪穴住居跡（2）や土坑（9）、遺物集中を検出し、イカベツ2遺跡でも少量の遺物がみられた。長沼町南九号線遺跡では北筒式期の黒曜石剥片や土器の集中（各10）を確認した。マオイ沼に近接した作業場とみられる。根室市別当賀一番沢川遺跡では北筒式期の竪穴住居跡（3）を検出した。

中期から後期にかけての時期とみられるTピットは、厚真町で数多く検出した。上幌内4遺跡（30）、上幌内5遺跡（91）、厚幌1遺跡（17）、厚幌2遺跡（6）で、溝状と円～楕円形が混在し、それぞれ列

をなすことが多い。オコッコ1遺跡では楕円形Tピット(4)の配列を確認し、富里3遺跡と幌内7遺跡(各1)でも単発的に楕円形Tピットを検出した。他に千歳市根志越5遺跡(5)と木古内町幸連3遺跡(1)で溝状Tピットを検出した。

後期 木古内町では札苺7遺跡で堂林式期の盛土遺構(3)が急斜面に形成されており、土偶やスタンブ形土製品などが出土している。竪穴住居跡(1)も検出した。幸連3遺跡では竪穴住居跡(3)や土坑、焼土があり、竪穴住居跡の窪みを利用して石囲い炉を設置した遺構も見られる。竪穴住居跡から琥珀製垂飾(1)が見つかった。幸連4遺跡B地区では中葉の土器が個体で発見されている。

千歳市でも堂林式期の竪穴住居跡がトプシナイ2遺跡(1)とイカベツ2遺跡(3)で検出され、後者は環状の柱穴列と入口構造がみられる。同遺跡では後葉の土坑・土坑墓も数多く、墓標穴が付属するものもある。土坑墓のまとまりや形状、ベンガラの使用など周堤墓との共通点が指摘できる。

厚真町ではオニキシベ3遺跡で、余市式・タプコブ式期を主体とした前葉の竪穴住居跡(5)を調査した。土坑や石組炉、遺物集中などとともに昨年度の調査に続く当該期の集落を形成している。同期の竪穴住居跡は上幌内4遺跡(2)、上幌内5遺跡(1)と厚幌1遺跡(1)でも検出できた。上幌内4遺跡での手稲式期、幌内6遺跡、オコッコ1遺跡でも後期の遺物出土を確認した。

晩期 根室市別当賀一番沢川遺跡で土坑墓(1)と土器集中を検出した。厚真町ではオニキシベ3遺跡で爪形文土器の集中(1)がみられたほか、オコッコ1遺跡と幌内7遺跡、千歳市イカベツ2遺跡でも少量の遺物がみられた。

続縄文時代 オコッコ1遺跡、イカベツ2遺跡、別当賀一番沢川遺跡で遺物を確認した程度である。

オホーツク文化期 今年度の調査では検出していない。

擦文文化期 厚真町ではオコッコ1遺跡で後葉の平地住居跡(4)、土坑、焼土や鉄器を伴う遺物集中などを検出した。厚幌1遺跡では焼土(2)や小土坑(4)に土器や棒状礫の集中が伴う集中区がある。幌内7遺跡では焼土(2)と土器、幌内6遺跡では土器の大型破片を検出した。千歳市ではイカベツ2遺跡で土器、トプシナイ2遺跡でアイヌ期にかけての焼土や棒状礫集中を確認した。

アイヌ文化期 厚真町では幌内6遺跡と厚幌2遺跡で平地住居跡(各1)、後者では焼土、棒状礫や獣骨の集中も検出できた。富里3遺跡では灰集中(1)と赤色漆塗椀の高台部を検出した。

千歳市根志越5遺跡では、河川跡から枝材集中(8)と杭跡(6)を検出した。枝材集中は1m未満の均一な長さの真っ直ぐな枝のまとまりで、大型の礫を載せているものが多く、中には3列で編みまとめられた簾状の製品もみられる。他の材料との組み合わせによる狩猟・漁撈施設の可能性が高い。

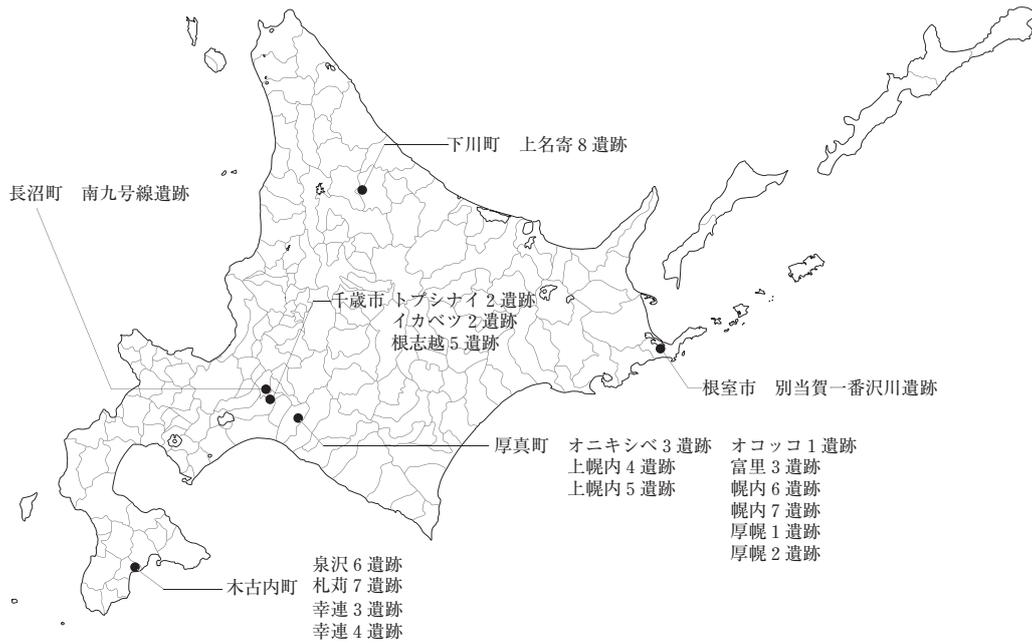
近世・近代 富里3遺跡で近代のアイヌ家屋や建物跡とみられる柱穴を検出し、厚幌1遺跡でも近代のアイヌ家屋跡(1)を確認した。上名寄8遺跡では灌漑水路の樋門の確認調査も行った。

整理作業・報告書作成 北海道開発局事業のうち道央圏連絡道路関係では、キウス3・11遺跡の報告書を刊行。レブント川左岸遺跡などの長沼町域分は継続整理をおこなっている。函館一江差道関係では北斗市館野6遺跡補償道路部分の整理作業が進展している。木古内町域では大平4遺跡、大平遺跡の整理作業に着手している。札苺7遺跡、札苺8遺跡、亀川5遺跡、泉沢5遺跡も整理作業を継続中である。厚幌導水路関係では調査を終えた遺跡のうち、厚真町富里3遺跡の報告も刊行する。

北海道新幹線関連では木古内町新道4遺跡と大平遺跡「遺構編」の報告書を刊行。大平遺跡「遺物編」と平成21～23年度に調査した福島町館崎遺跡の整理作業も、鋭意進行中である。

厚幌ダム事業では、平成25年度調査のイクバンドユクチセ3遺跡と26年度調査のショロマ4遺跡の報告書を刊行。継続整理の上幌内3遺跡の整理作業を展開するとともに、継続調査中の上幌内4・5遺跡やオニキシベ3遺跡は最終年度に向けての調査・整理計画を調整中である。

根室半島線道路改良の根室市トーサムポロ湖周辺竪穴群は、平成26年度調査の報告書を刊行する。



平成27年度 発掘調査遺跡および掲載遺跡の位置図

平成27年度 事業別発掘調査・整理事業遺跡一覧

事業委託者	原因工事	遺跡名	所在地	調査面積(㎡)	現地調査年	
国土交通省 北海道 開発局	札幌開発建設部 道央圏連絡道路泉郷道路工事	キウス11	千歳市	整理作業	平成23・24年度調査	
		キウス3		整理作業	平成25・26年度調査	
		トブシナイ2		2,250	継続	
		イカベツ2	長沼町	9,669	継続	
		レプトン川左岸		整理作業	平成26年度調査	
		レプトン川右岸		整理作業	平成26年度調査	
	函館開発建設部 高規格幹線道路函館江差自動車道建設工事	根志越地区遊水地工事用地内	南九号線遺跡	千歳市	4,375	新規
			根志越5		2,000	継続
			館野6	木古内町	850	新規・継続
			大平4		303	新規
			大平		383	新規
			札幌8		492	新規
			亀川5		2,912	新規
泉沢5			1,018		平成25年度にも調査	
札幌7	1,000	平成25年度から継続				
泉沢6	1,668	新規・継続				
幸連3	9,709	新規				
旭川開発建設部	名寄川河道掘削工事	幸連4	下川町	7,978	新規・継続	
		上名寄8		850	新規・継続	
室蘭開発建設部	勇払東部(二期)地区厚幌導水路工事用地内	富里3	厚真町	303	新規	
		幌内6		383	新規	
		幌内7		492	新規	
		オコッコ1		2,912	新規	
		厚幌1		1,018	平成25年度にも調査	
釧路開発建設部	根室防雪事業改良等工事	厚幌2	根室市	1,982(終了899)	新規・継続	
		別当賀一番沢川		1,300	新規・継続	
鉄道運輸機構	北海道新幹線建設事業	館崎	福島町	整理作業	平成21～23年度調査	
		大平		整理作業	平成21～23年度調査	
		新道4		整理作業	平成25年度調査	
北海道 胆振総合振興局	厚幌ダム建設事業	イクバンドクチセ3	厚真町	整理作業	平成25年度調査	
		ショロマ4		整理作業	平成26年度調査	
		上幌内3		整理作業	平成25・26年度調査	
		上幌内4		907	平成26年度から継続	
		上幌内5		5,012	平成25年度から調査	
	オニキシベ3	4,630	平成26年度から継続			
	厚真川改修工事	オコッコ1	厚真町	0	新規・契約解除	
合 計				着手58,438 ㎡	終了57,355 ㎡	

2 調査遺跡

ながぬま みなみきゅうごうせん

長沼町 南九号線遺跡 (E-17-061)

事業名：道央圏連絡道路泉郷工事埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局札幌開発建設部

所在地：夕張郡長沼町字幌内1058-7ほか

調査面積：4,375㎡

調査期間：平成27年5月11日～7月31日

調査員：鈴木 信、山中文雄

調査の概要

遺跡は長沼町市街地から南南東へ約8km、南長沼用水と町道南九号線の交差点の東にあり、遺跡名は町道名による。立地は馬追丘陵西側前縁、標高13mの緩斜面に立地し、約400m北には「幌内K遺跡」があり、約300m南には「レブントン川右岸遺跡」「レブントン川左岸遺跡」がある。新登載の遺跡であり、遺跡は、上記事業名にかかわる平成18年の所在確認調査によってその存在が認められ、平成25年12月に「レブントン川右岸遺跡」「レブントン川左岸遺跡」とあわせて、新たに登載された。

基本層序は、Ⅰ層：耕作土、Ⅱ層：樽前aテフラ (Ta-a)、Ⅲ層：黒色シルト (Ta-cが混じる)、Ⅳ層：樽前cテフラ (Ta-c)、Ⅴ層：褐色シルト、Ⅵ層：黄褐色ローム質土、Ⅶ層：恵庭aテフラ、である。

遺構と遺物

遺構は、黒曜石製剥片集中 (FC) 10か所、土器集中1か所が検出された。土器集中1は縄文中期後半の北筒Ⅱ式の深鉢片が集中していた。黒曜石製剥片集中のうち、FC-1～4・7～9には土器片が数点しか含まれていないが、FC-5・10には10片前後含まれており、それらは縄文中期後半の土器であった。黒曜石製剥片集中には青色片岩製の剥片が多く含まれており、うちFC-1・2・5・9・10からは石核も出土している。また、FC-5・6付近からは滑石製垂飾が出土した。

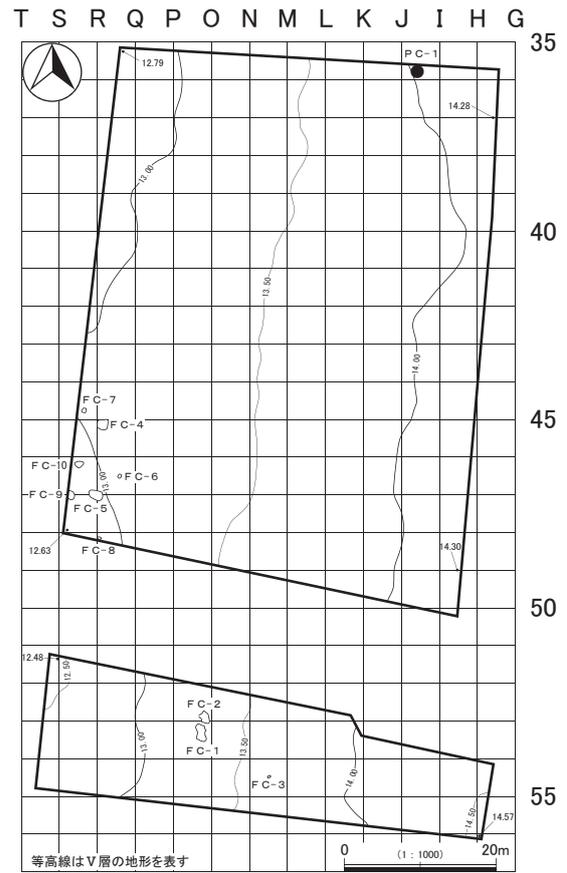
遺物は、縄文中期後半の土器、石器であり、その量は、遺構出土土器1,640点、遺構出土石器38,408点、包含層出土土器5,954点、包含層出土石器22,982点であった。なお、遺物は黒色シルト層に包含されている量よりも、褐色シルト層に包含されているものが多い。



遺跡位置図



調査範囲と周辺の地形



遺構位置図



調査状況

ちとせ
千歳市 トプシナイ 2 遺跡 (A-03-107)

事業名：道央圏連絡道路泉郷工事埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局札幌開発建設部

所在地：千歳市泉郷707-6ほか

調査面積：2,250 m²

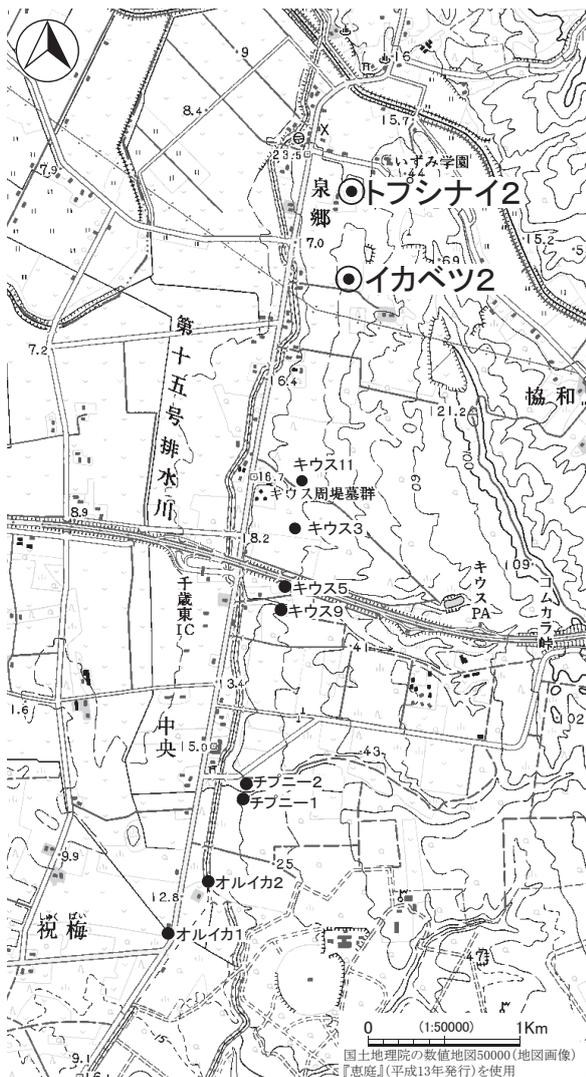
調査期間：平成27年7月14日～9月30日

調査員：鈴木 信、菊池慈人、芝田直人、富永勝也、山中文雄

調査の概要

遺跡（登載範囲）は道東自動車道千歳東ICの北北東2.5km、トビスナイ川西岸に拡がり、0.5kmほど北方には嶮淵川がある。調査範囲は登載範囲の南東側にあたり、トビスナイ川右岸に沿った傾斜面に立地し、北2kmにはキウス遺跡群がある。遺跡名の「トプシナイ」は、アイヌ語で「top-us-nay:根曲り竹・群生する・沢」と解されている。約600m南方には「イカベツ2遺跡」があり、その1.5km南南西に史跡「キウス周堤墓群」がある。調査は昨年から続いて2年目となる。

層序は、Ⅰ層:耕作土、Ⅱ層:樽前aテフラ (Ta-a)、Ⅲ層:黒色シルト (Ta-c混じり)、Ⅳ層:樽前cテフラ (Ta-c)、Ⅴ層:黒色シルト、Ⅵ層:褐色シルト、Ⅶ層:黄褐色ローム質シルト、Ⅷ層:恵庭aテフラであり、高位面は削平により支笏火山灰が露出し、低位部（旧トビスナイ川氾濫原）ではTa-a・泥炭化した黒色シルト、還元作用により白色化した黄褐色ローム質シルトが堆積している。



遺跡位置図



調査範囲と周辺の地形



豎穴住居跡 VH-2 (堂林式期)



豎穴住居跡 VH-3 (東釧路IV式以前)



土坑 VP-12 (縄文後期後葉)



土坑 VP-22 (縄文晚期以前)



焼土 III F-8 (アイヌ文化期)



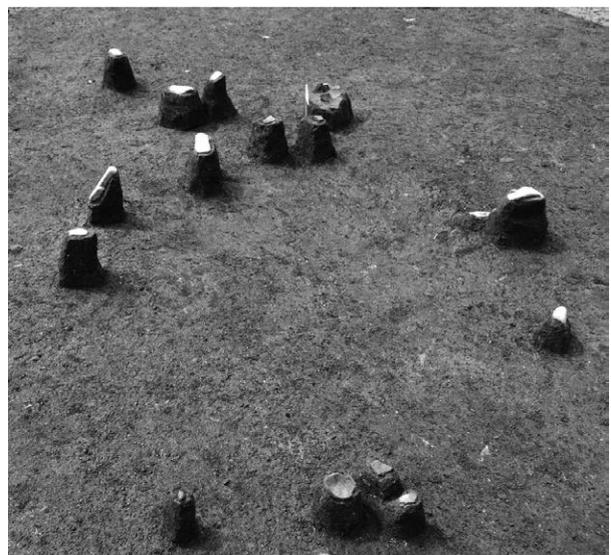
焼土 III F-11 ~ 14 (擦文文化期)



焼土 III F-10 ・ 礫集中 III SC-7 (アイヌ文化期)



礫集中 III SC-6 (アイヌ文化期)



礫集中 III SC-10 (擦文文化期)

ちとせ
千歳市 イカベツ 2 遺跡 (A-03-107)

事業名：道央圏連絡道路泉郷工事埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局札幌開発建設部

所在地：千歳市泉郷446、1127、1217

調査面積：9,669㎡

調査期間：平成27年5月11日～8月11日

調査員：菊池慈人、富永勝也

調査の概要

遺跡はJR千歳駅から北東へ約10km、国指定史跡「キウス周堤墓群」の北1.5km、嶮淵川に合流するトビスナイ川左岸源流部（そこは嶮淵川合流点から約1.3km遡った地点）に立地する。遺跡名の「イカベツ」はアイヌ語で「ika-pet:越える-川」と解されている。遺跡の位置はトビスナイ川左岸源頭部に流れ込む沢の肩部、南北に延びる丘陵の尾根～東斜面にあたり、調査範囲は周知の包蔵地北縁に接する250m×40～50mの範囲である。本年度の発掘調査は、二次堆積した遺物包含層からの遺物採集を行った昨年度に続くものである。

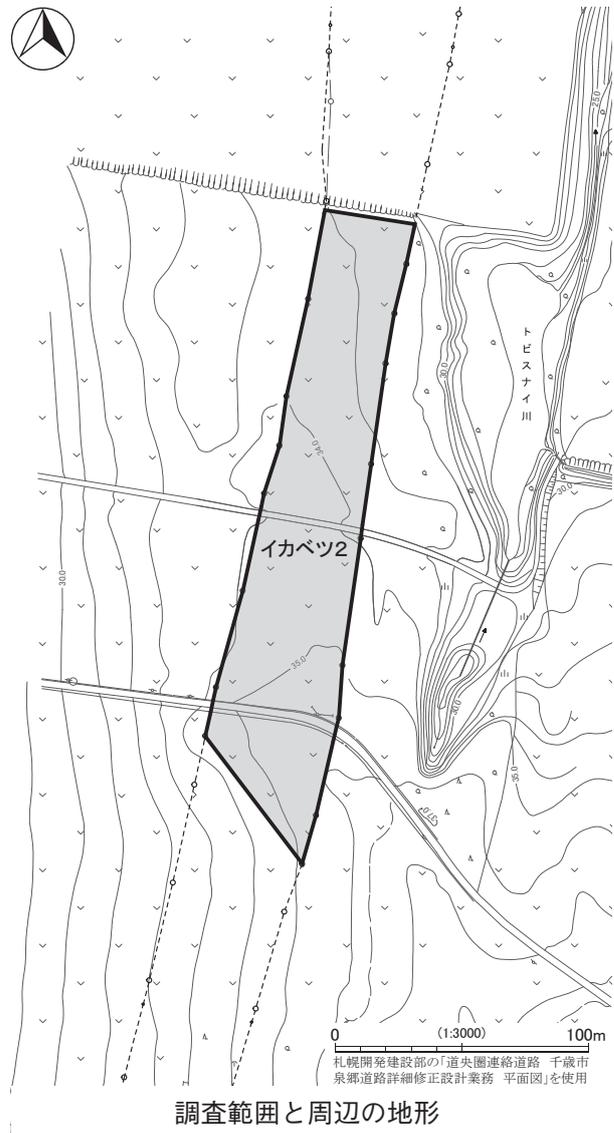
遺構と遺物

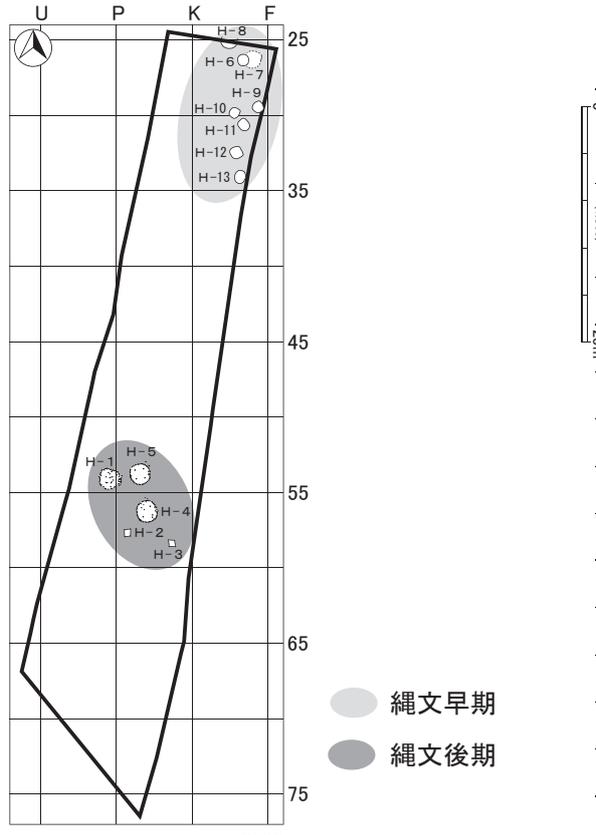
遺物は、縄文時代早期～晩期と続縄文時代、擦文文化期におよぶ土器約10,000点、石器約22,000点のほか石製玉類21点、金属製品1点、ガラス玉1点が出土した。

遺構は、縄文時代早期と後期が主体で、竪穴住居跡(H)13軒、土坑及び土坑墓(P)80基、Tピット(TP)1基、土器囲い炉及び焼土(F)12か所、土器集中4か所、フレイク集中(FC)1か所、杭列3か所、小ピット(SP)2か所を検出した。

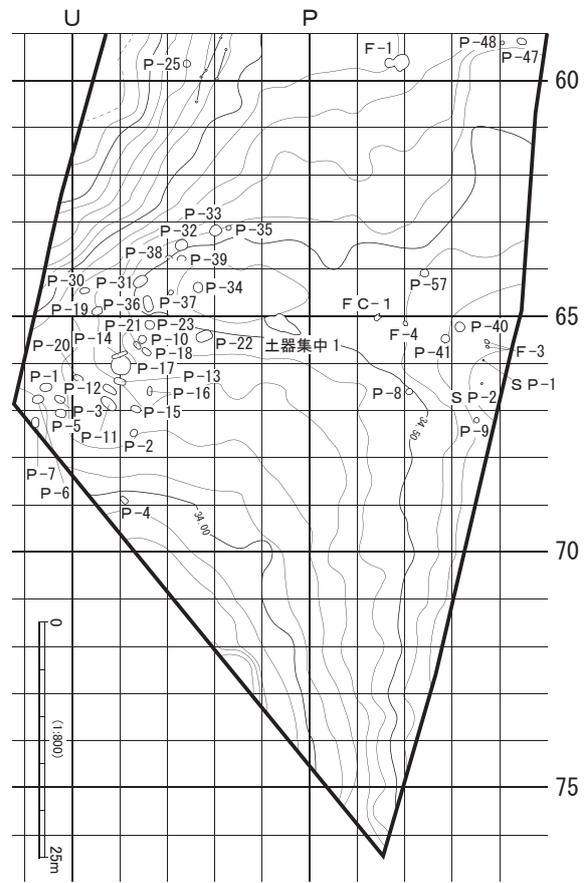
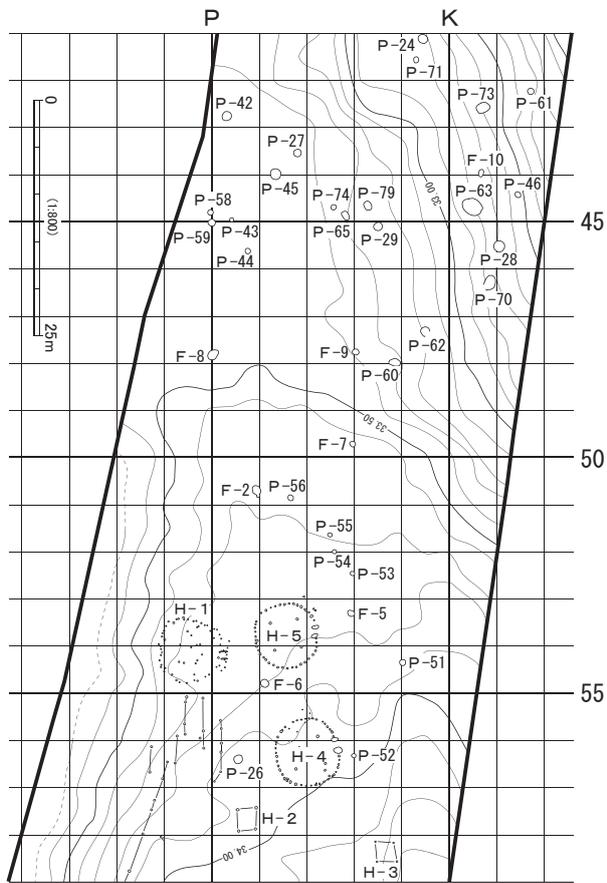
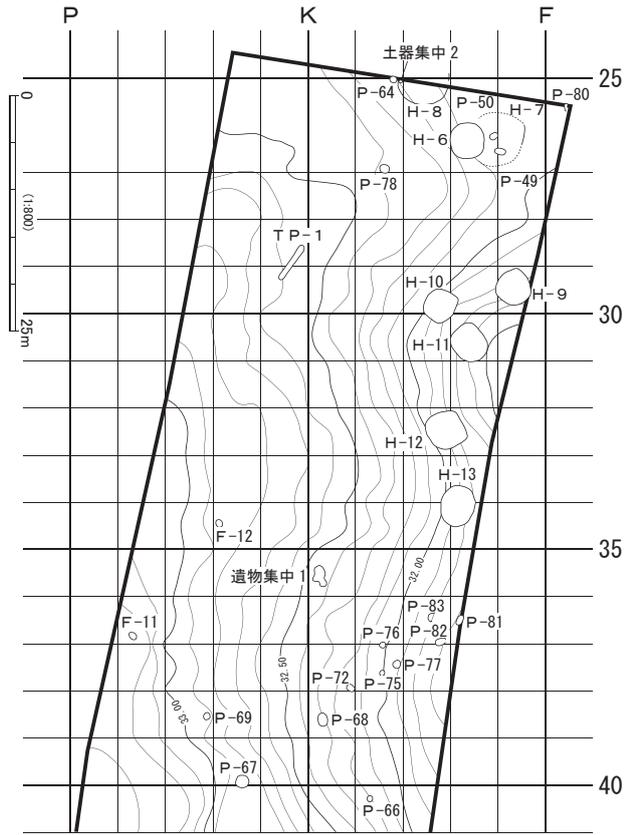
早期では暁式期の竪穴住居跡6軒(H-6・9・10・11・12・13)が調査区北側のトビスナイ川に向い下っていく斜面に密集して検出しており、さらに川に沿って竪穴住居群が広がっているものと考えられる。

後期では堂林式期に特徴的な環状の壁柱穴列と入口構造を持つ竪穴住居跡3軒(H-1・4・5)を調査区中央よりやや南側の緩斜面において検出した。また後期後葉と考えられる土坑墓が調査区南側の段丘の突端部に密集しており、そのうち坑底でベンガラが確認されたものが5基(P-11～15)ある。P-11は特にベンガラが厚く、さらに翡翠製の玉13点、石斧1点が出検された。墓坑の形態から3体合葬と考えられ、また長軸方向に墓標の痕跡とみられる柱穴2ヶ所を確認した。調査区北端においても同時期の土坑墓2基(P-49・50)を検出した。





S = 1 : 2500
竪穴住居跡の分布



遺構位置図



縄文時代後期後葉の土坑墓群 調査状況



土坑墓 P-11



土坑墓 P-12



土坑墓 P-13



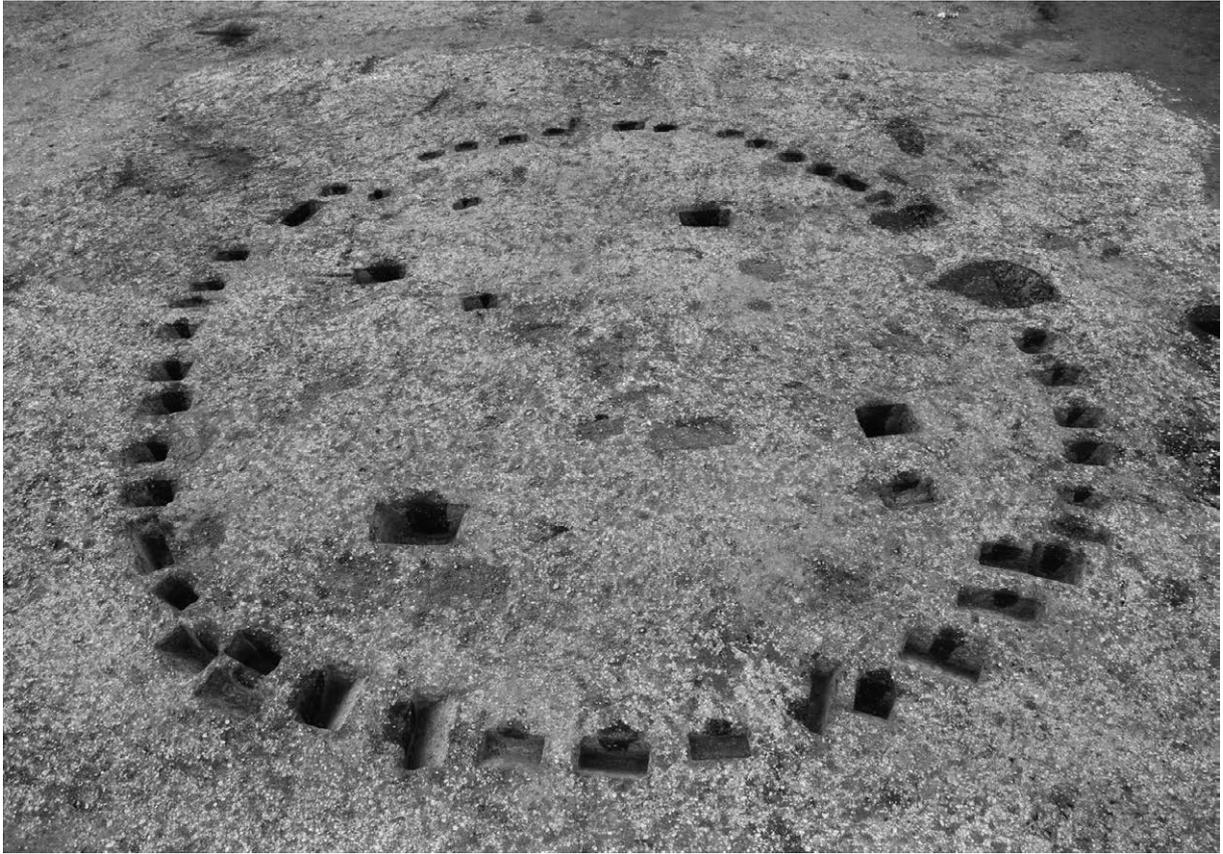
土坑墓 P-50



土器囲い炉 F-1 (縄文時代後期前葉)



土坑 P-40 (縄文時代晩期)



豎穴住居跡 H-4 (堂林式期)



豎穴住居跡 H-5 (堂林式期)



縄文時代早期の竪穴住居跡群



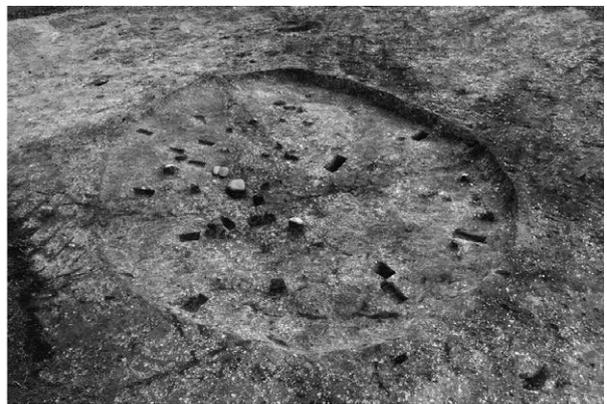
竪穴住居跡 H-10 (晩式期)



H-10 出土の晩式土器



竪穴住居跡 H-12



竪穴住居跡 H-13

ちとせ ねしこし
千歳市 根志越5遺跡 (A-03-291)

事業名：根志越地区遊水地工事用地内埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局札幌開発建設部

所在地：千歳市根志越2476-1、2

調査面積：2,000㎡

調査期間：平成27年8月3日～10月29日

調査員：菊池慈人、山中文雄、富永勝也、芝田直人

調査の概要

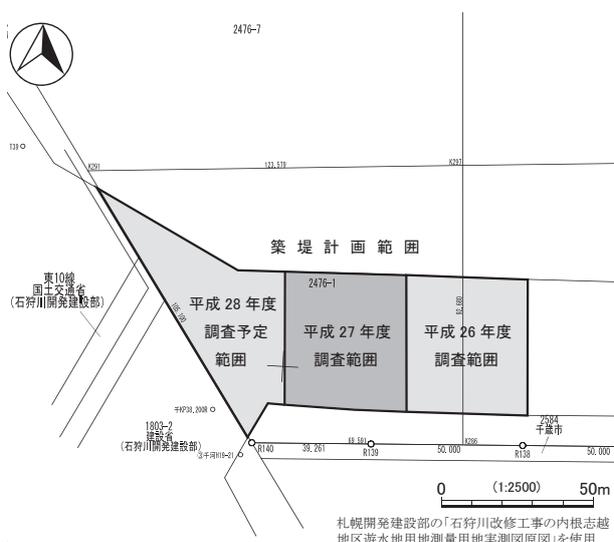
遺跡はJR千歳駅から北北東へ約4km、千歳川右岸に位置する。遺跡名の「根志越」は、アイヌ語で「nesho-us-i:オニグルミの木・群生する・ところ」と解されている。現地表の標高は約8mであり、昭和30年代の長都沼干拓工事（「長都新水路工事」）以前は長都原野と呼ばれる未墾の泥炭地であった。約500m南西には擦文文化期のトメト川1遺跡がある。

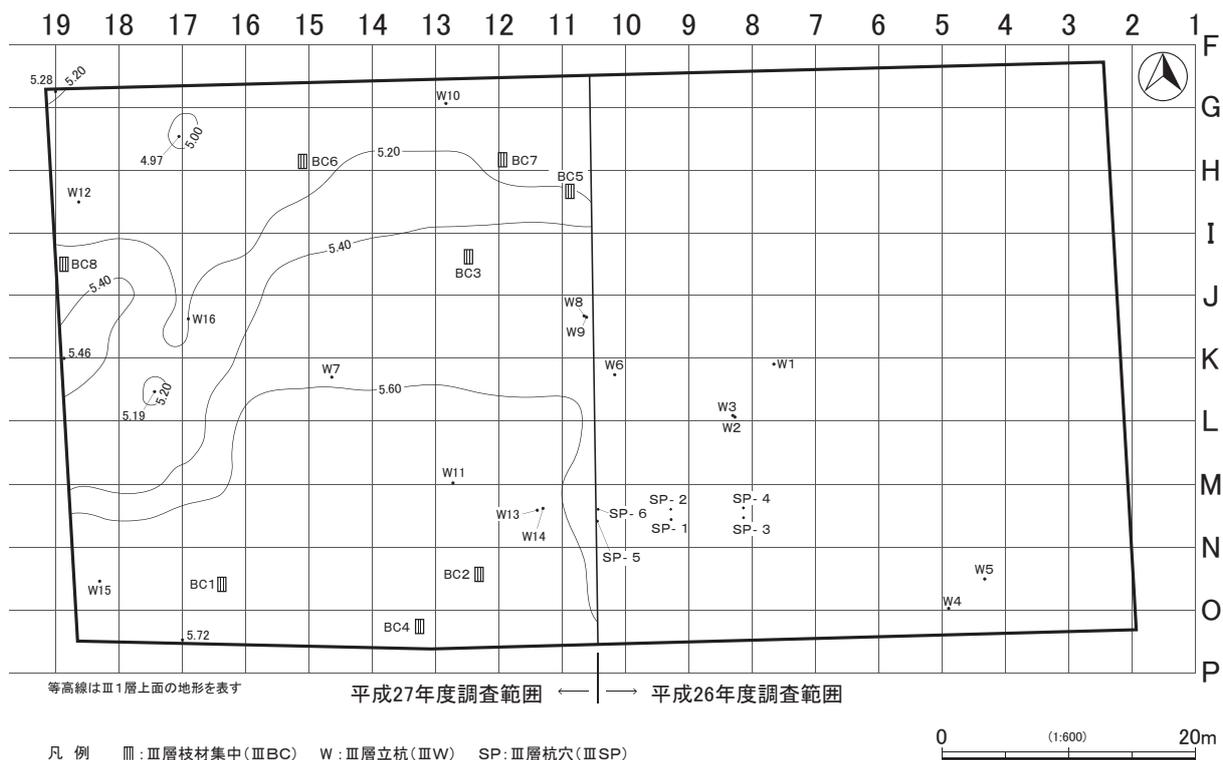
調査に至る経緯については次のとおりである。千歳川流域の洪水対策事業としての遊水地の建設計画が立案され、平成22年から埋蔵文化財保護のための事前協議が北海道教育委員会と札幌開発建設部でなされ、平成23年から北海道教育委員会による範囲確認調査が始まった。平成25年の試掘調査では樽前c降下テフラ層の下位から縄文時代中期の土器、石器が確認されたことから、築堤にあたる範囲は記録保存が必要となった。本年度の発掘調査は昨年度に続き2年目である。

遺構と遺物

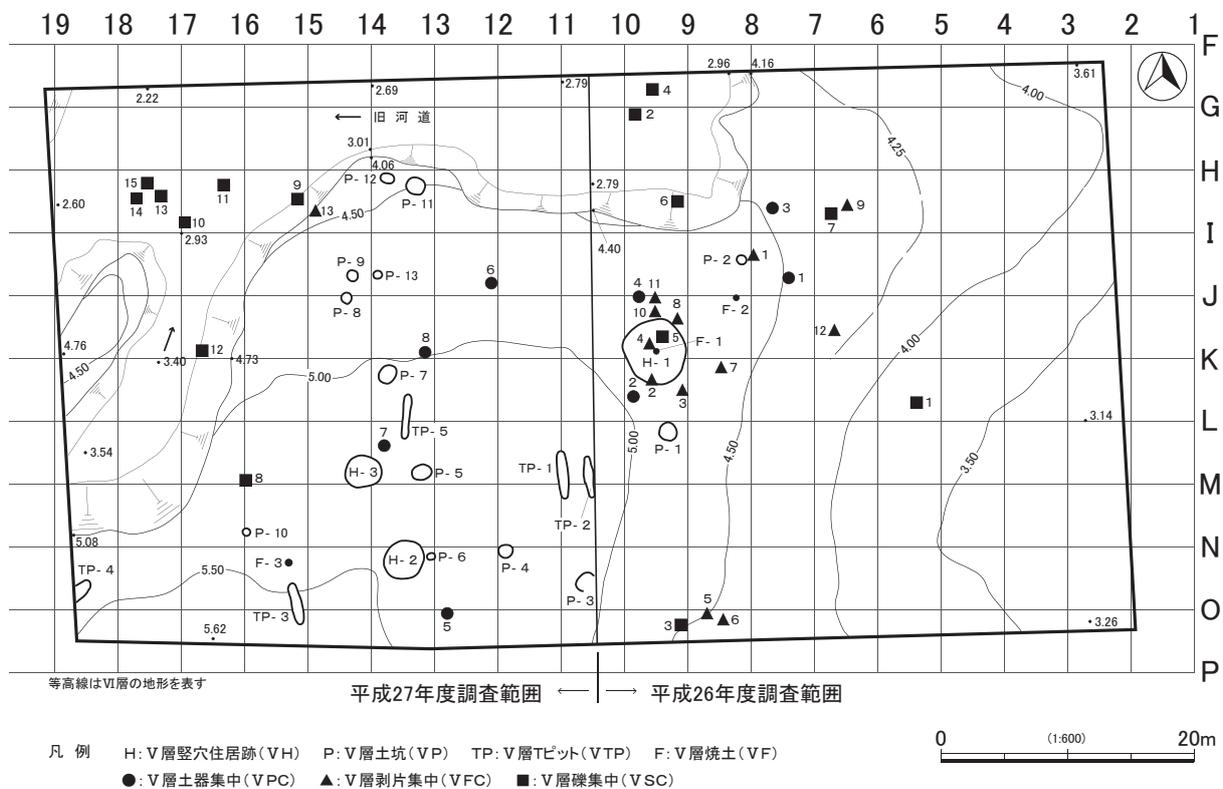
層序は、Ⅰ層：耕作土、Ⅱ層：樽前aテフラ（層厚約30cm）、Ⅲ1層：灰白色シルト質土（層厚約15cm、台地上の第一黒色土相当で近世アイヌ文化期の水性堆積層）、Ⅲ2層：褐色泥炭質土（層厚約30cm、台地上の第一黒色土相当）、Ⅳ層：樽前cテフラ（層厚約10cm）、Ⅴ層：黒色泥炭質土（層厚約70cm、台地上の第二黒色土相当）、Ⅵ層：漸移層、Ⅶ層：黄褐色土、Ⅷ層：恵庭aテフラ、となっている。

遺構は、縄文時代中期の竪穴住居跡2軒、土坑および土坑墓9基、Tピット5基、焼土1か所、土器集中4か所、剥片集中1か所、礫集中8か所を検出した。またアイヌ文化期の遺構として枝材集中8か所、立杭6か所を検出した。枝材集中は細い枝を縄で結んで簾状にし、その上に石が置かれている。魚を捕る罟である「うけ」の一部であると考えられる。遺物は、縄文時代中期～後期初頭を主体とする土器約5,900点、石器約3,600点、アイヌ文化期の木製品53点、鉄製品1点が出土した。





Ⅲ層遺構位置図



Ⅴ層遺構位置図



調査状況



竪穴住居跡 VH-2 (縄文時代中期)



大型の石皿が出土した土坑 VP-13 (縄文時代)



TP-1 土層断面



枝材集中 ⅢBC-6 (アイヌ文化期)



枝材集中 ⅢBC-2



枝材集中 ⅢBC-3



枝材集中 ⅢBC-5



枝材集中 ⅢBC-7

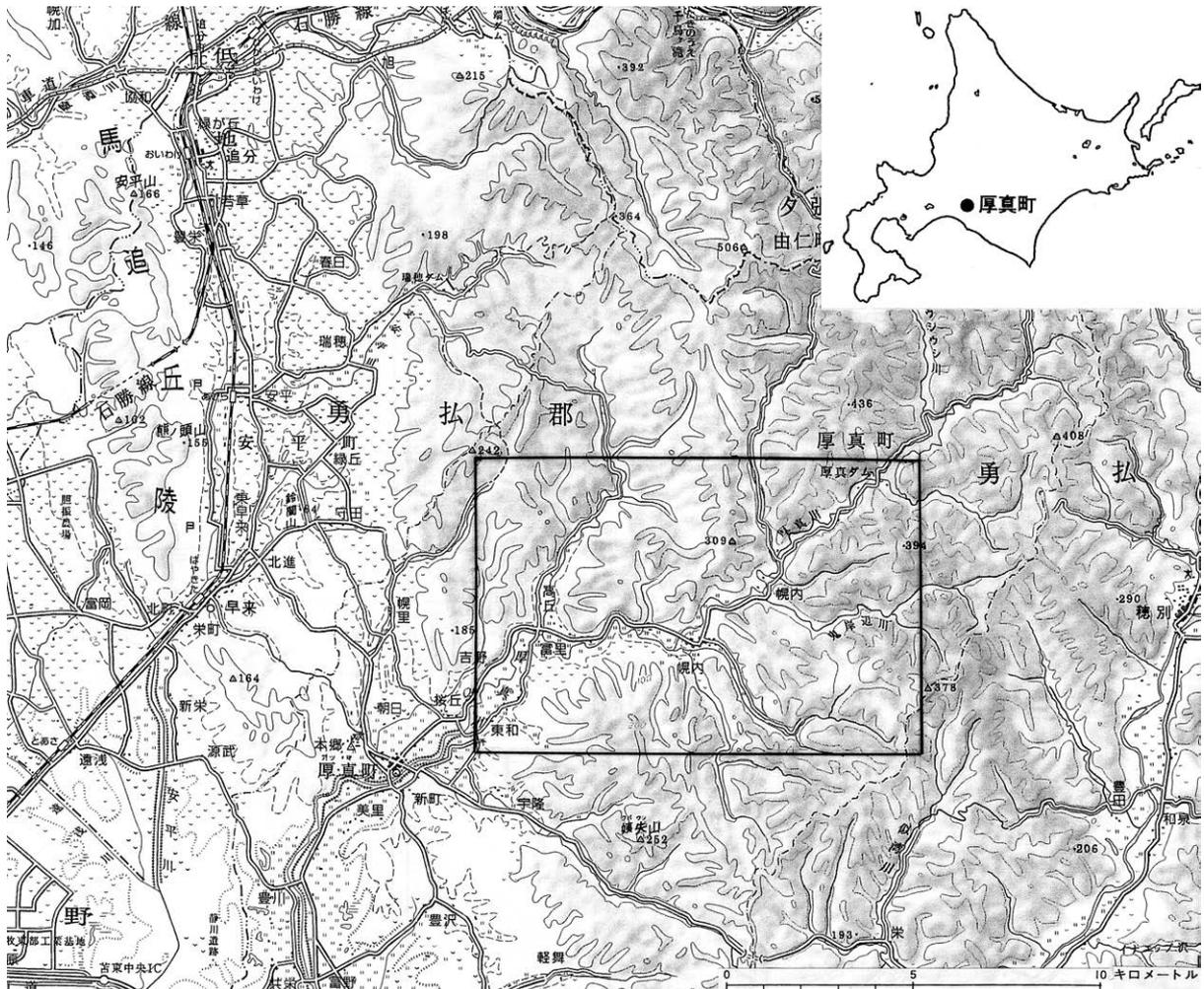
厚真川上～中流域の発掘調査

厚幌ダムは、洪水調整、灌漑用水と水道水の確保、流水の正常な機能維持などを行う多目的ダムとして北海道胆振総合振興局が建設を進めている。ダム建設に伴う発掘調査は、厚真町教育委員会により平成14(2002)年に厚幌1遺跡から開始されており、これまでに上幌内モイ遺跡、ヲチャラセナイチャシ跡・ヲチャラセナイ遺跡、オニキシベ2・4・5・6遺跡、ショロマ1・2・3遺跡、上幌内1・2遺跡、一里沢遺跡の調査が行われてきた。また、ダム事業に連動して厚幌導水路事業が国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部により行われ、これに伴い厚幌1遺跡、幌内5・7遺跡、富里2遺跡、ニタップナイ遺跡の調査が行われている。

当センターによる発掘調査は、平成24年度のオニキシベ1遺跡から実施しており、オニキシベ3遺跡、イクバンドユクチセ2・3遺跡、上幌内3・4・5遺跡、ショロマ4遺跡、厚幌1遺跡の調査を行ってきた。また厚真川中流域の河川改修工事に関する道道の改良工事に伴い、朝日遺跡の調査を行った。今年度は下記に示したように、厚真川上流域のダム事業関連3遺跡、厚真川上～中流域の導水路関連6遺跡の調査を行った。

〔厚幌ダム建設事業関連〕オニキシベ3遺跡・上幌内4遺跡・上幌内5遺跡

〔厚幌導水路事業関連〕オコッコ1遺跡・富里3遺跡・幌内6遺跡・幌内7遺跡・厚幌1遺跡・厚幌2遺跡



厚真川上～中流域位置図 国土地理院発行20万分の1地勢図「札幌」「夕張岳」を使用



遺跡位置図

国土地理院発行2万5千分の1地形図「厚真川上流」を縮小して使用

あつま
厚真町 オッココ1遺跡 (J-13-107)

事業名：勇払東部（二期）地区厚幌導水路工事用地内埋蔵文化財発掘調査業務

委託者：国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部

所在地：勇払郡厚真町字幌内938-1

調査面積：2,912㎡

調査期間：平成27年5月12日～10月29日

調査員：村田 大、中山昭大、新家水奈、阿部明義、立田 理

調査の概要

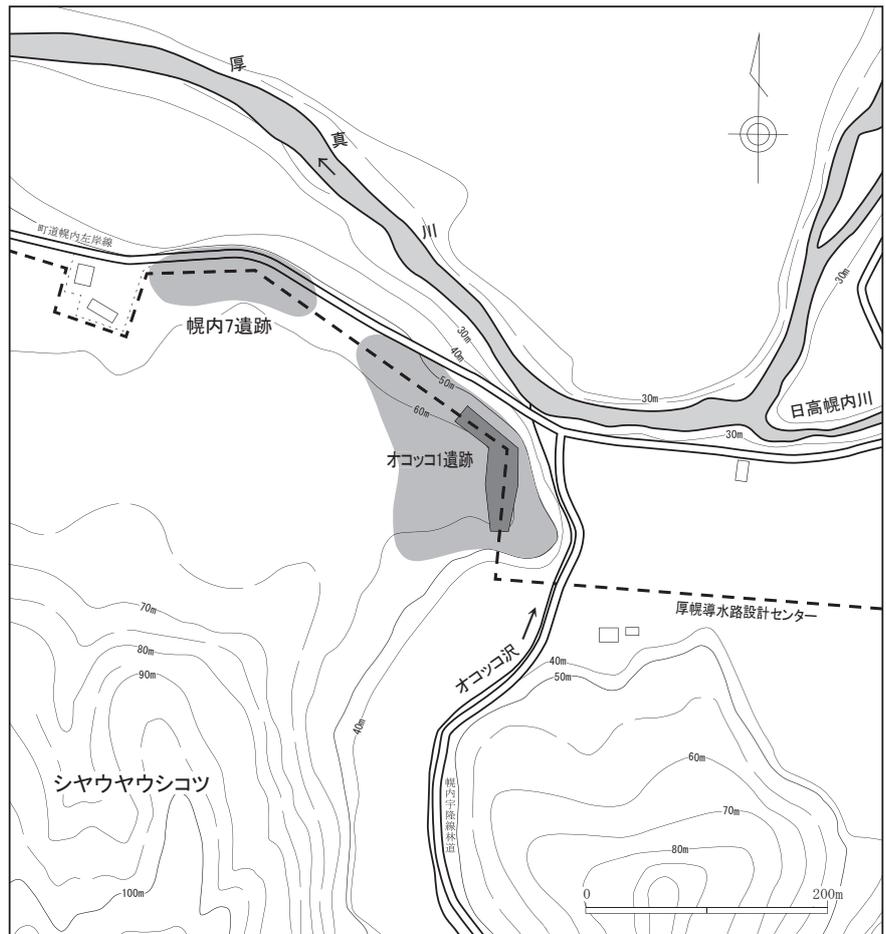
遺跡は、厚真町市街地から北東へ約7km、厚真川とオッココ沢川の合流点に位置する。調査区は合流点に面した舌状に張り出す台地上で、標高約60mの見晴のよい場所となっている。遺物包含層は樽前山から供給された3枚の火山灰（テフラ）に挟まれて存在しており、基本層序はこれらの火山灰を含めて7層に区分した。上位からⅠ層：現代耕作土、Ⅱ層：樽前bテフラ（Ta-b、1667年）、Ⅲ層：黒色土（縄文時代晩期～擦文文化期遺物包含層）、Ⅳ層：樽前cテフラ（Ta-c、約2,500年前）、Ⅴ層：黒褐色土（縄文時代前期前半～縄文時代晩期遺物包含層）、Ⅵ層：漸移層、Ⅶ層：樽前dテフラ（Ta-d、約7,000年前）となっている。調査はⅢ層から行い、Ⅳ層を重機で除去した後、Ⅴ層を調査するという工程で行った。

遺構と遺物

Ⅲ層の調査では、平地住居跡4軒、土坑1基、焼土15か所、土器集中3か所、土器以外の遺物集中16か所、柱穴状小土坑119基を検出した。各集中と小土坑については平地住居を構成するものも含んだ数である。

住居跡は台地の平坦部に分布する。重複する炉跡があり、概ね方形の外周穴があるものが3軒で、うち炉跡の長軸が東西方向となるものは2軒、北東-南西方向が1軒である。このほか最も北に位置するⅢH-4は、長軸方向を南北にとる構造で他と異なる。

土坑は調査区西側に住居と離れて検出された。平面形は長径約2mの楕円形で覆土は埋め戻されている。これらは検出層位と出土遺物から、擦文文化後期頃のものと思われる。



調査範囲図

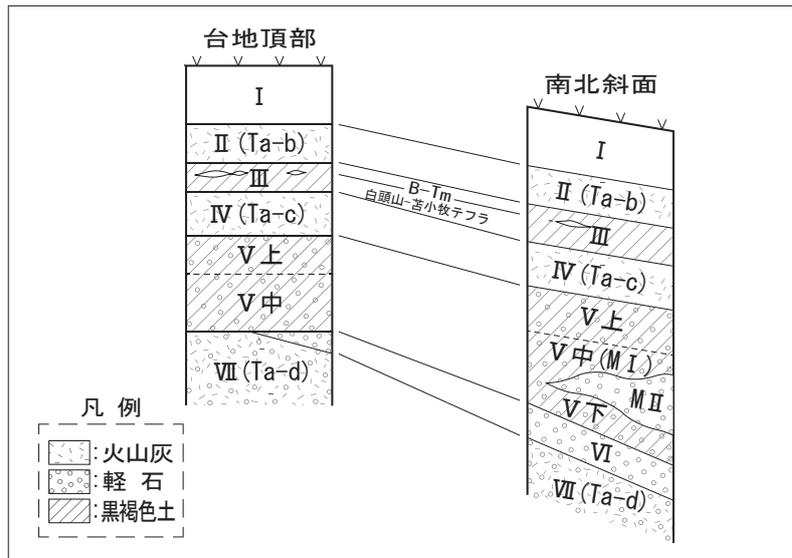
遺物は主に遺構名にSを冠した遺物集中域から出土している。集中域からは棒状、板状を呈する礫の他、鉄製品や動物骨も出土している。ⅢS-5とした調査区中央に位置するものからは、袋状鉄斧、刀子、板状鉄斧が刃先をそろえて見つかった。このほかの鉄製品には魚突鉤、鉄鍋等がある。集中域の時期は、土器集中1については続縄文時代初頭であるが、その他は擦文文化期のもものと推定される。

V層の調査は、盛土遺構2か所、
 竪穴住居跡6軒、土坑15基（土坑墓2基を含む）、Tピット4基、ベンガラ集中1か所、遺物集中2か所、柱穴状小土坑74基などを検出した。盛土遺構は台地頂部のV層下部～Ⅶ層を削平して南北の斜面に土盛りしたとみられるものである。盛土は再堆積層として認識できる層位と、その上位に堆積する遺物を多く含むV層で構成される。再堆積層をMⅡ層、V層をMⅠ層として区分して調査した。住居跡のうち北斜面に位置する3軒は標高57～58mの等高線上にはほぼ等間隔に並ぶ。平面形は長軸3mほどのやや不整な隅丸方形で、炉はなく柱穴も明瞭ではない。2基の土坑墓は南北盛土の末端近くにそれぞれ検出されている。南側の土坑墓VP-2は平面形が東西に長い楕円形で、検出面には形状に沿って弧を描く配石がみられた。北側の土坑墓VP-10はⅦ層で検出したが、上位の盛土堆積中にベンガラが検出されており、坑口に散布された可能性がある。人骨はいずれも残りが悪いが横臥・仰臥屈葬の状態、両者ともつまみ付きナイフが胸部～腹部付近から出土している。これらの盛土遺構と重複する住居跡と土坑墓はいずれも盛土遺構の堆積に覆われており、盛土遺構の時期である縄文時代前期前葉かそれ以前のもものとみられる。Ⅵ層を削平した部分から住居跡3軒、土坑8基が検出されている。多くが削平以後に構築されたと想定される。

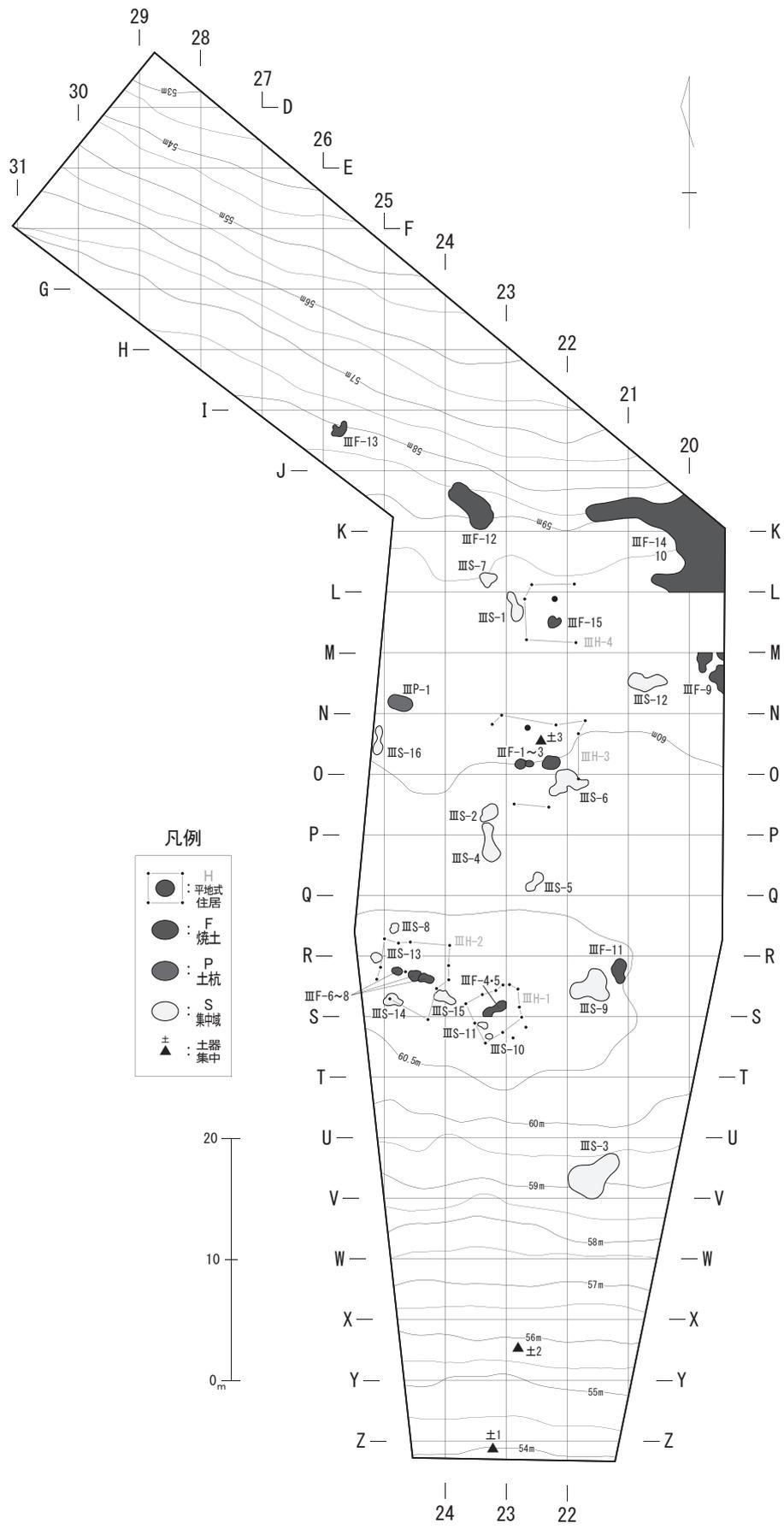
V層の調査は、盛土遺構2か所、
 竪穴住居跡6軒、土坑15基（土坑墓2基を含む）、Tピット4基、ベンガラ集中1か所、遺物集中2か所、柱穴状小土坑74基などを検出した。盛土遺構は台地頂部のV層下部～Ⅶ層を削平して南北の斜面に土盛りしたとみられるものである。盛土は再堆積層として認識できる層位と、その上位に堆積する遺物を多く含むV層で構成される。再堆積層をMⅡ層、V層をMⅠ層として区分して調査した。住居跡のうち北斜面に位置する3軒は標高57～58mの等高線上にはほぼ等間隔に並ぶ。平面形は長軸3mほどのやや不整な隅丸方形で、炉はなく柱穴も明瞭ではない。2基の土坑墓は南北盛土の末端近くにそれぞれ検出されている。南側の土坑墓VP-2は平面形が東西に長い楕円形で、検出面には形状に沿って弧を描く配石がみられた。北側の土坑墓VP-10はⅦ層で検出したが、上位の盛土堆積中にベンガラが検出されており、坑口に散布された可能性がある。人骨はいずれも残りが悪いが横臥・仰臥屈葬の状態、両者ともつまみ付きナイフが胸部～腹部付近から出土している。これらの盛土遺構と重複する住居跡と土坑墓はいずれも盛土遺構の堆積に覆われており、盛土遺構の時期である縄文時代前期前葉かそれ以前のもものとみられる。Ⅵ層を削平した部分から住居跡3軒、土坑8基が検出されている。多くが削平以後に構築されたと想定される。

遺物は約38万点で、点数は未集計であるが、砂岩礫片が多くを占める。土器はⅢ層では擦文文化後期のものが主体で、わずかに続縄文時代のものが出土している。V層では縄文時代前期前半縄文尖底土器が多く、中期前半の円筒土器上層式、中期後半の北筒式、煉瓦台式、後期初頭の余市式が少量、後期中葉～後葉、晩期中葉の土器がごくわずかに出土している。石器は石鏃、石槍、石錐、つまみ付きナイフなどの剥片石器、礫石器には石斧、たたき石、すり石、北海道式石冠、砥石、石皿などがある。石斧は原石から未製品、再加工時の剥片など製作工程を示す一連の遺物が出土している。なお調査において礫と認識された礫石器を含む遺物、約30万点については未水洗で、来年度に水洗などを行う予定である。

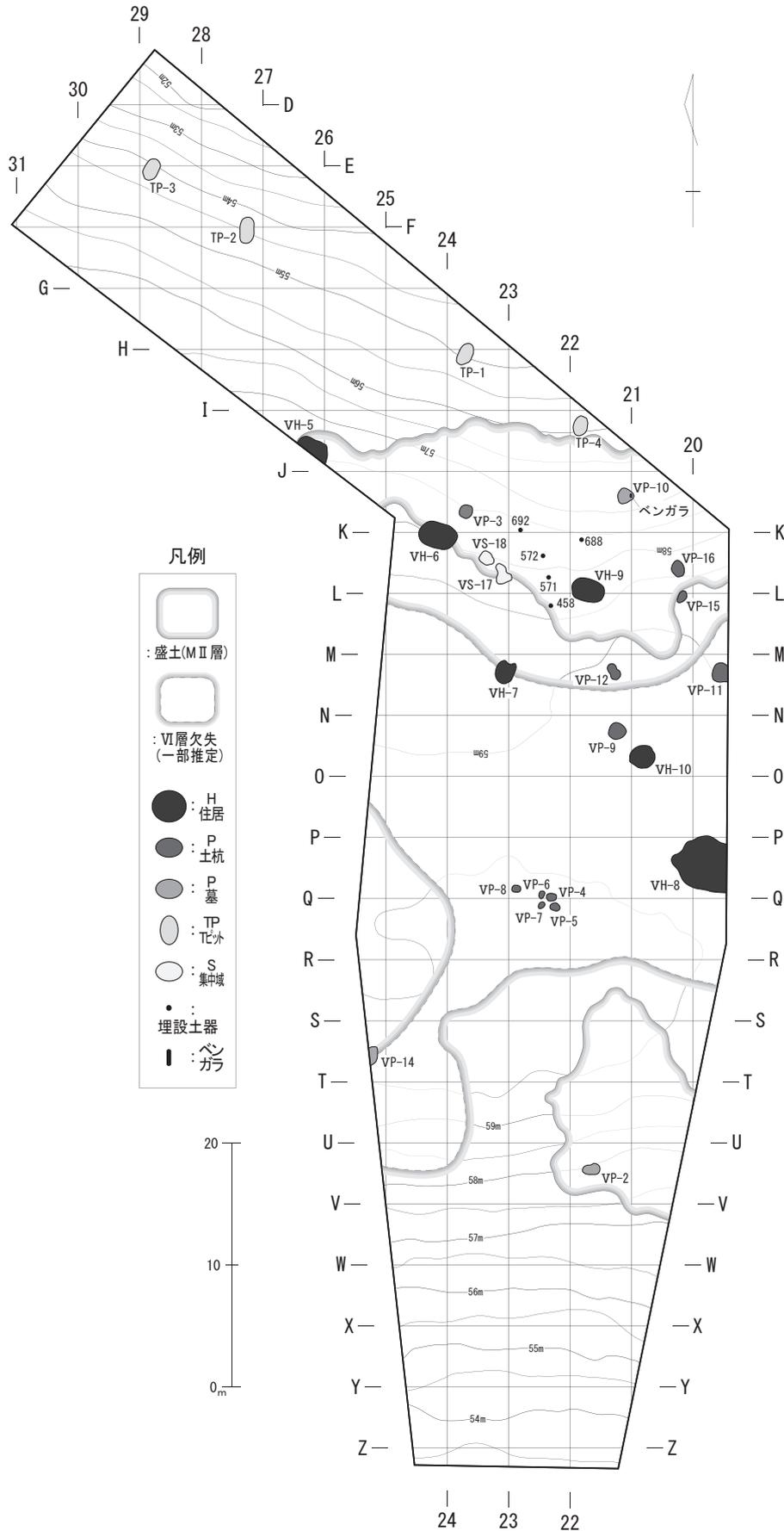
なお盛土遺構からは上記尖底土器が底部を欠き伏せた状態のものが出土した。この土器以外の尖底土器群とみられる土器片も北盛土中央の9グリッドほどの部分に偏って出土している。盛土からはこのほか、つまみ付きナイフ等の剥片石器、前述の石斧製作関連遺物、礫石器、礫、焼骨片等が出土している。最も多いのは礫で、その大きさは大小様々であり、多くが被熱し割れている。調査区内の土層中にはこのような礫は含まれておらず、盛土形成期に人為的に持ち込まれたものとみられる。焼骨については、採取したものを概観した限りであるが、シカの四肢骨が多いようである。



基本層序模式図



Ⅲ層遺構位置図（等高線はⅢ層上面）



V層遺構位置図 (等高線はVII層上面)



調査区遠景



住居跡 H-2 全景



遺物集中 S-7 検出



遺物集中 5 検出状況



焼土 F-5 (H-1) 土層断面



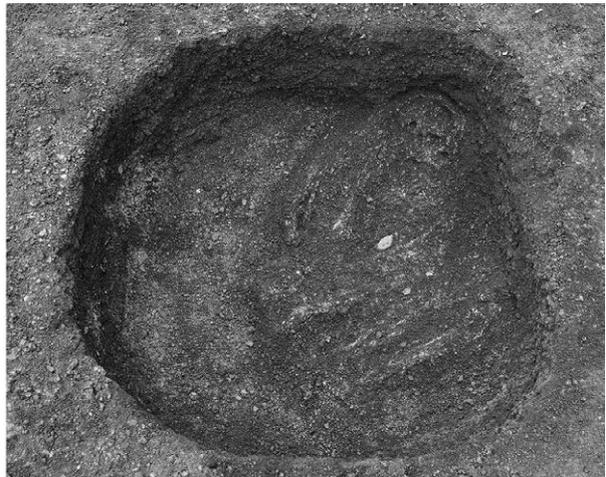
北側盛土Ⅱ層 遺物出土状況（縄文時代前期前半）



北側盛土Ⅱ層 検出状況（パノラマ合成写真）



土坑墓 P-2 人骨出土状況（縄文時代前期前半）



土坑墓 P-10 人骨出土状況（縄文時代前期前半）

あつま とみさと
厚真町 富里3遺跡 (J-13-133)

事業名：勇払東部（二期）地区厚幌導水路工事用地内埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部

所在地：勇払郡厚真町字富里322-3・4・5、325-11

調査面積：303㎡

調査期間：平成27年5月12日～6月12日

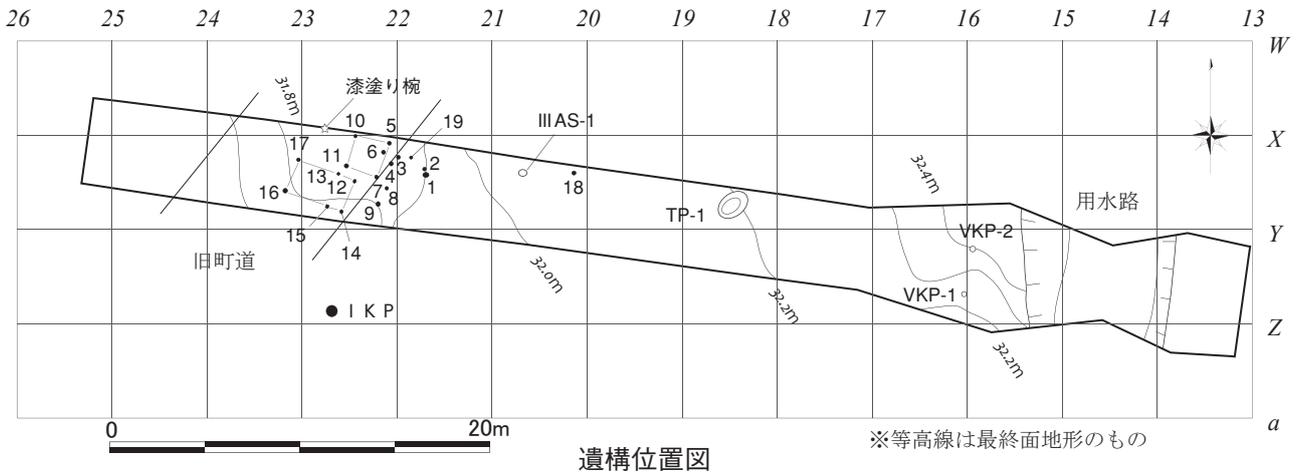
調査員：村田 大、中山昭大、新家水奈

調査の概要

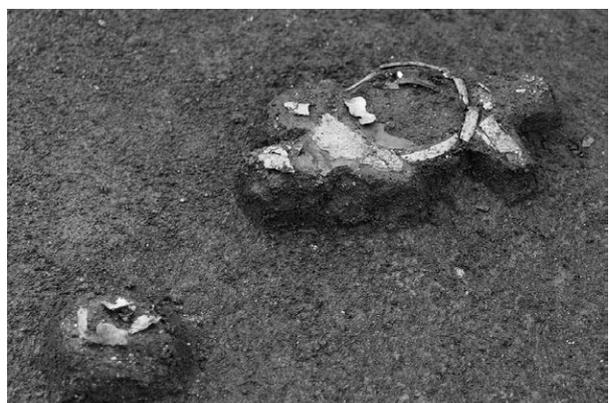
遺跡は、厚真市街地から北東へ約4km、厚真川左岸、標高約32mの段丘上に位置する。遺跡周辺では昭和30年代までアイヌの熊送りの儀式が行われていたことが伝えられている。基本土層はオコッコ1遺跡と同じであるが、現代の耕作によりⅢ層、Ⅴ層の大部分が削平されていた。

遺構と遺物

樽前cテフラ (Ta-c) より上位の層では、アイヌ文化期のものと思われる漆塗りの椀、灰集中 (ⅢAS) 1か所を検出した。Ta-cより下位の層では、縄文時代の楕円形のTピット (TP) 1基、柱穴 (VKP) 2基を検出した。Tピットでは長軸上に杭跡が3本見つかった。熊送りの伝承との直接の関連性は不明であるが、現代のものと思われる柱穴19本が見つかっており、IKPとして記録した。調査の結果、縄文時代の土器片416点、石器・礫等805点、現代の陶磁器片75点や釘類2点などが出土した。



調査状況



漆塗り椀 出土状況 (アイヌ文化期)

あつま ほろない
厚真町 幌内6遺跡 (J-13-98)

事業名：勇払東部（二期）地区厚幌導水路工事用地内埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部

所在地：勇払郡厚真町字幌内971-1

調査面積：383 m²

調査期間：平成27年10月5日～10月29日

調査員：村田 大、中山昭大、阿部明義

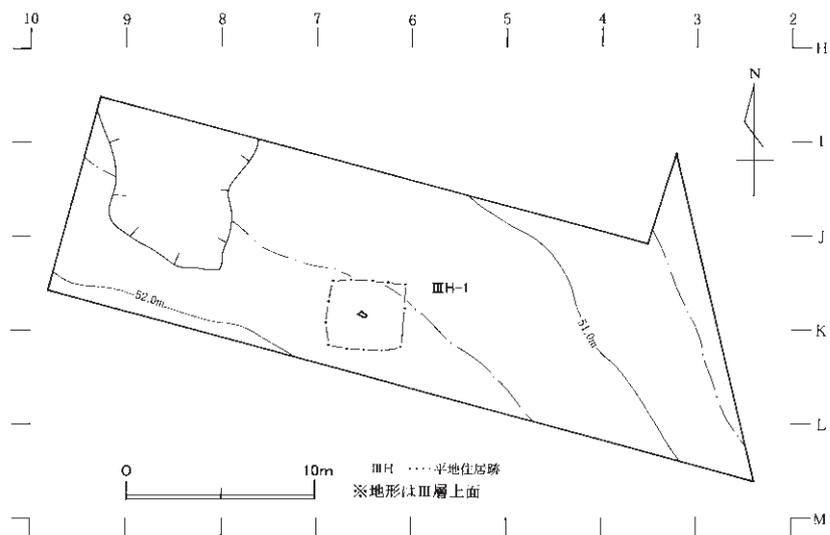
調査の概要

遺跡は厚真市街地から北東へ約7km、オコッコ1遺跡から約800m西、厚真川左岸の河岸段丘上に位置し、標高は50～52mである。現況は植林地で、調査区は北東方向に緩やかに傾斜しており、東は無名の沢が厚真川に流下している。基本土層はオコッコ1遺跡と同様で、樽前cテフラ（Ta-c、Ⅳ層）をはさみ、Ⅲ層黒色土およびⅤ層黒色土が遺物包含層である。

遺構と遺物

Ta-cより上位（Ⅲ層）では、アイヌ文化期の平地住居跡1軒を検出した。炉は小規模で、灰を少量含む。遺物は「棒状礫」が少数まとまっていたほか、風倒木痕から擦文土器の大型破片が出土した。

Ta-cより下位（Ⅴ層）では、遺構は検出されず、縄文時代中期および後期の土器片、石器類、礫が約500点出土した。Ⅴ層が比較的厚く堆積する調査区北西側では出土点数が比較的多い。



遺構位置図



調査状況



平地住居跡 (アイヌ文化期)

あつま 厚真町 幌内7遺跡 (J-13-103)

事業名：勇払東部（二期）地区厚幌導水路工事用地内埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部

所在地：勇払郡厚真町字幌内938-1

調査面積：492㎡

調査期間：平成27年6月16日～7月24日

調査員：村田 大、中山昭大、新家水奈、阿部明義

調査の概要

遺跡は厚真市街地から北東へ約7.5km、オコッコ1遺跡から約200m北西、厚真川左岸の河岸段丘縁辺部に位置し、標高は51～57mである。現況は畑地に隣接する荒蕪地および町道である。調査区内の地形は、西側の一部が平坦面であるが、大部分は東方向に傾斜する斜面である。西側の段丘上では、平成20年に厚真町教育委員会が952㎡の調査を行っており、アイヌ文化期の平地住居跡・灰集中をはじめ、擦文文化期・続縄文時代・縄文時代の遺構・遺物が発見されており、北大式土器がまとめて出土している。基本土層はオコッコ1遺跡と同様で、樽前cテフラ（Ta-c、IV層）をはさみ、Ⅲ層黒色土およびV層黒色土が遺物包含層である。

遺構と遺物

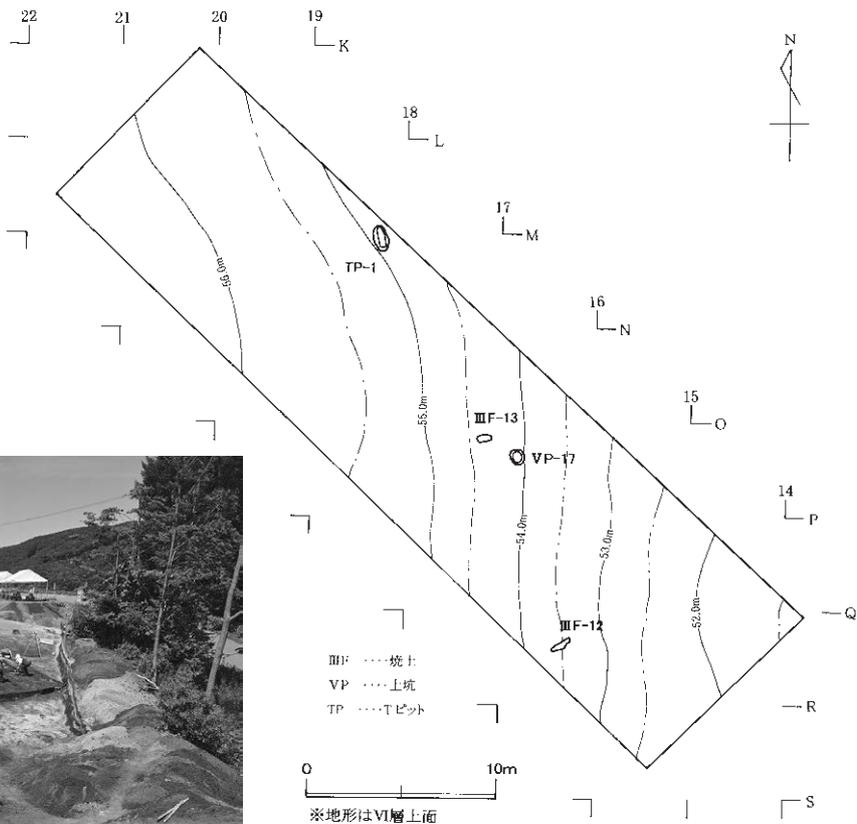
Ta-cより上位（Ⅲ層）では、斜面で焼土2か所を検出した。遺物は計約90点で、北西部の段丘上で擦文土器片や「棒状礫」が少数出土した。

Ta-cより下位（V層）では、土坑1基とTピット1基を検出した。Tピットは平面が楕円形で比較的小型である。

遺物は総数約1,900点で、縄文時代前期および晩期の土器片、石器類、礫がみられ、調査区北側では晩期の土器がまとめて出土し、斜面では前期の土器が散見された。



調査状況



遺構位置図

あつま 厚真町 厚幌1遺跡 (J-13-25)

事業名：勇払東部（二期）地区厚幌導水路工事用地内埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部

所在地：勇払郡厚真町字幌内487-1

調査面積：1,018㎡

調査期間：平成27年8月3日～10月29日

調査員：村田 大、中山昭大、新家水奈、阿部明義

調査の概要

厚幌1遺跡は厚真市街地から北東へ約10km、厚真川上流部左岸の河岸段丘上に位置する。調査区より東側はキウキチ沢が深く開析し、対岸の段丘上に厚幌2遺跡がある。調査区内の標高は57～60mで、全体的に平坦であるが、北西方向に緩やかに傾斜する。

当遺跡では、厚幌ダム関連および導水路建設工事に伴う発掘調査を厚真町教育委員会（平成14・15・20・24年）および当センター（平成25年）において5次にわたる調査が実施されてきた。主な調査成果として、擦文～中世アイヌ文化期の焼土、灰集中、獣骨、炭化物集中などの検出、縄文時代前期前葉の墓1基、中期～後期のTピット137基、後期初頭の竪穴住居跡4軒などの検出があげられる。

基本層序は次ページの図の通りで、Ⅲ層黒色土層およびⅤ層黒色土層が遺物包含層である。

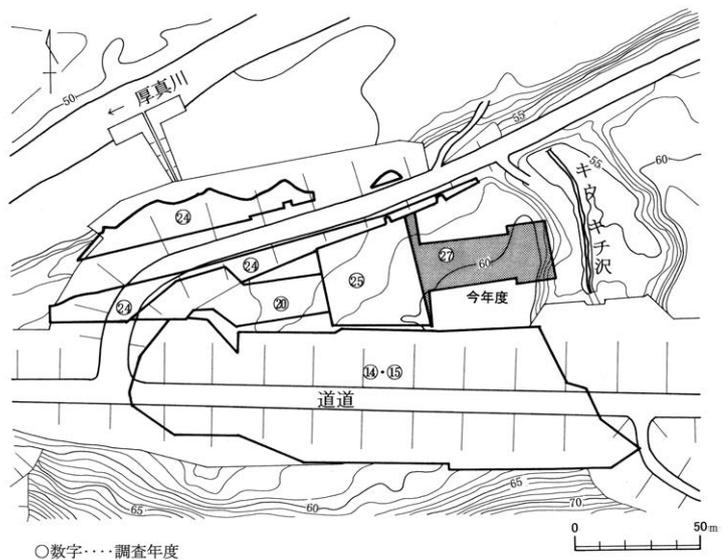
遺構と遺物

Ta-cより上位（Ⅲ層）では、擦文文化期の小規模な遺構や遺物がまとまって出土した範囲を「集中区」とした。その範囲では、焼土2基、柱穴状小土坑4基、土器集中1か所、礫集中6か所を検出した。Ⅲ層の遺物は土器・石器・礫等約1,500点が出土している。土器は擦文後期の^{かめ}甕・高坏片がある。礫は長楕円体を呈する「棒状礫」が多数出土している。

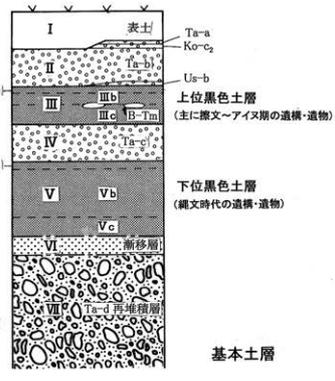
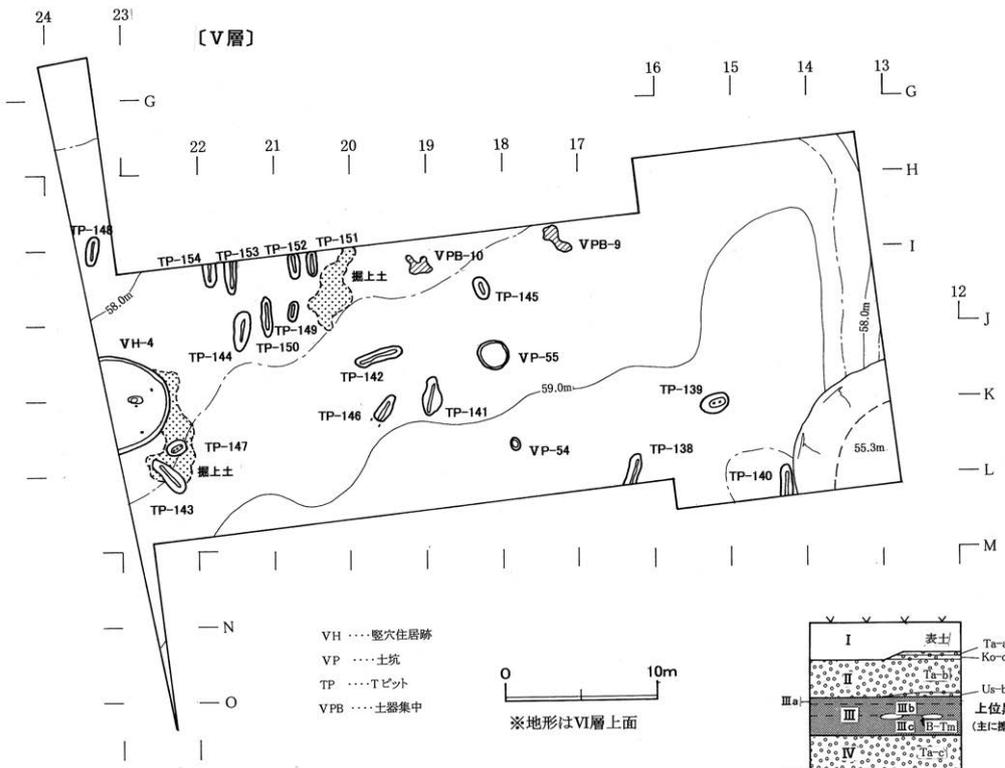
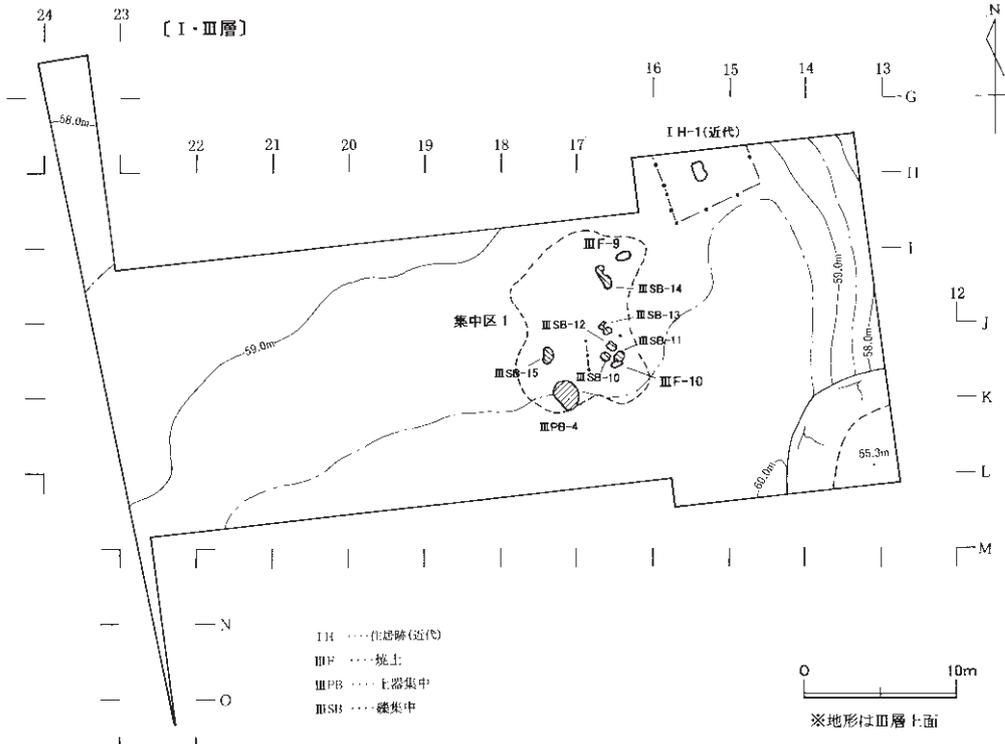
Ta-cより下位（Ⅴ層）からは、竪穴住居跡1軒、土坑2基、Tピット17基、土器集中2か所を検出した。竪穴住居跡は平成25年度調査の残り半分で、縄文後期初頭の土器を伴う。Tピットは調査区北西部に密に分布し、溝状のものが主体で、平面が楕円形のものが少数ある。後者には、坑底に杭穴のあるものがみられる。土器集中は、中期の円筒土器上層b式・後期の余市式などがある。

Ⅴ層の遺物は、土器、石器等、礫合わせて約3,700点が出土した。土器は縄文時代中期～後期を主体とする。石器は石鏃、石槍、石錐、つまみ付きナイフ、スクレイパー、石斧、すり石、たたき石、くぼみ石、砥石、台石などが出土している。剥片類は微細な黒曜石のほか緑色片岩がやや目立ち、石斧の製作、調整加工などが行われた可能性がある。礫は板状の角礫が多い。

このほか、近代のものと思われる建物跡1軒を検出した。



調査範囲と周辺の地形

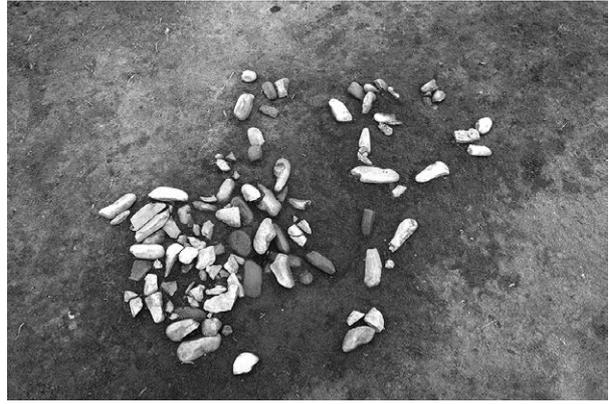


- テフラ記号凡例
- Ta-a: 樽前 a テフラ
 - Ko-c₂: 駒ヶ岳 c₂ テフラ
 - Ta-b: 樽前 a テフラ
 - Us-b: 有珠 b テフラ
 - B-Tm: 白頭山-苦小牧火山灰
 - Ta-c: 樽前 a テフラ
 - Ta-d: 樽前 a テフラ

遺構位置図



集中区（擦文文化期）遺物出土状況



礫集中



竪穴住居跡（縄文時代後期）



Tピット 土層断面



完掘

あつま あっほろ
厚真町 厚幌2遺跡 (J-13-88)

事業名：勇払東部（二期）地区厚幌導水路工事用地内埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部

所在地：勇払郡厚真町字幌内487-1

調査面積：1,982㎡（調査終了面積899㎡）

調査期間：平成27年8月3日～10月29日

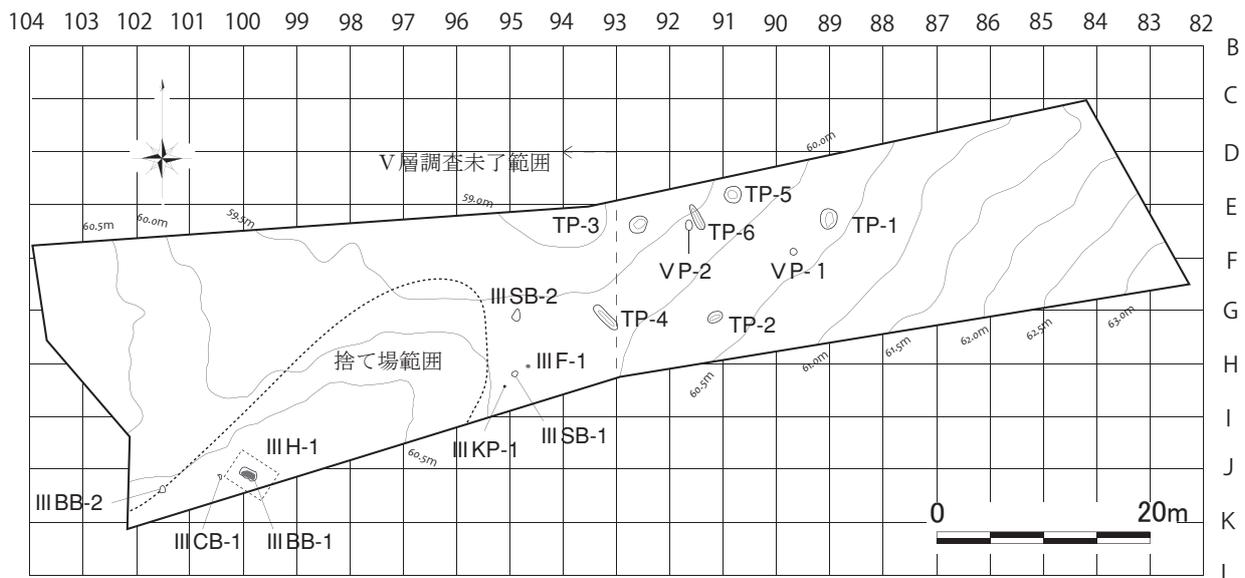
調査員：村田 大、中山昭大、新家水奈、阿部明義

調査の概要

遺跡は、厚真市街地から北東へ約10km、キウキチ沢川の東側台地上に位置し、標高は60m前後である。基本土層は厚幌1遺跡と同じであるが、部分的に樽前aテフラや、駒ヶ岳c2テフラが確認できる。また調査区東側の大部分に縄文時代前期以前の大規模な土石流による樽前dテフラの再堆積層がみられる。来年度以降、西側の調査を継続する予定である。

遺構と遺物

樽前cテフラ（Ta-c）より上位の層では、アイヌ文化期のものと思われる平地住居跡（ⅢH）1軒、焼土（ⅢF）1か所、柱穴状小土坑（ⅢKP）1基、礫集中（ⅢSB）2か所、炭化物集中（ⅢCB）1か所、獣骨集中（ⅢBB）2か所が見つかった。これらの遺構は調査区中央の93ラインより西側で検出されている。Ta-cより下位の層では、縄文時代前期の土器、石器などの「捨て場」とみられる遺物の集中域が見つかった。石器類が多くを占め、黒曜石の石鏃、頁岩のつまみ付きナイフ、北海道式石冠、たたき石、石皿、被熱した砂岩片（砥石？）などの礫石器、緑色片岩の石斧などがみられた。「捨て場」は調査区の西側の高まりを中心に広がっており、焼けた獣骨片や黒曜石の微細剥片が散在している。遺構調査が終了している東側の地区では、礫が入った浅い小土坑（VP）2基、平面が円～楕円形のTピット（TP）4基、溝状のTピット2基を検出した。前者のタイプのTピットの坑底からは4～8本の杭跡が見つっている。これらの遺構は西側の地区にも広がると思われる。今年度のおおよその出土遺物量は約50,000点である。



※等高線はV層上面地形のもの

遺構位置図



調査区土層断面



平地住居跡（アイヌ文化期）



Tピット 土層断面



Tピット 坑底杭跡



捨て場（縄文時代前期）

あつま
厚真町 オニキシベ3遺跡 (J-13-78)

事業名：厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査

委託者：北海道胆振総合振興局

所在地：勇払郡厚真町字幌内445-1ほか

調査面積：4,630㎡

調査期間：平成27年5月12日～10月30日

調査員：愛場和人、末光正卓、奥山さとみ、吉田裕吏洋

調査の概要

遺跡は厚真町市街地から北東へ約12km、厚真川の支流である鬼岸辺川右岸、標高約80mの段丘上に立地する。調査予定面積は26,020㎡で、これをA～Bの3地区に分けて平成26年度から調査を実施している。A地区は町道鬼岸辺沢線を含む北側の範囲で、来年度調査が行われる予定である。B地区は前述の町道の南側に広がる平坦面から緩斜面にかけての範囲である。C地区は鬼岸辺川に面する低位の面に位置する。平成26年度はB地区の北側部分とC地区全体（遺構確認調査）の調査を行った。今年度はB地区の南側部分4,630㎡を調査した。「オニキシベ」の語源は「オ・ニ・ケ・ウシ・ペ」というアイヌ語で「入り口で・木を・削り・つけている・もの」という意味があり、オニキシベ沢の入口に昔シナノキがたくさん生えていて、アイヌの人々はいつもその皮を剥いで繊維をとり、縄や衣料にしていたという。

基本土層はⅠ層：表土、Ⅱ層：樽前bテフラ (Ta-b) 層、Ⅲ層：黒色土、Ⅳ層：樽前cテフラ (Ta-c) 層、Ⅴ層：黒色土、Ⅵ層：漸移層、Ⅶ層：樽前dテフラ (Ta-d) から構成される層である。また、B地区南側ではⅣ層より下位の黒色土がなく、その直下は灰色を呈する水成堆積の粘土層である。遺物は主としてⅤ層から出土している。

遺構と遺物

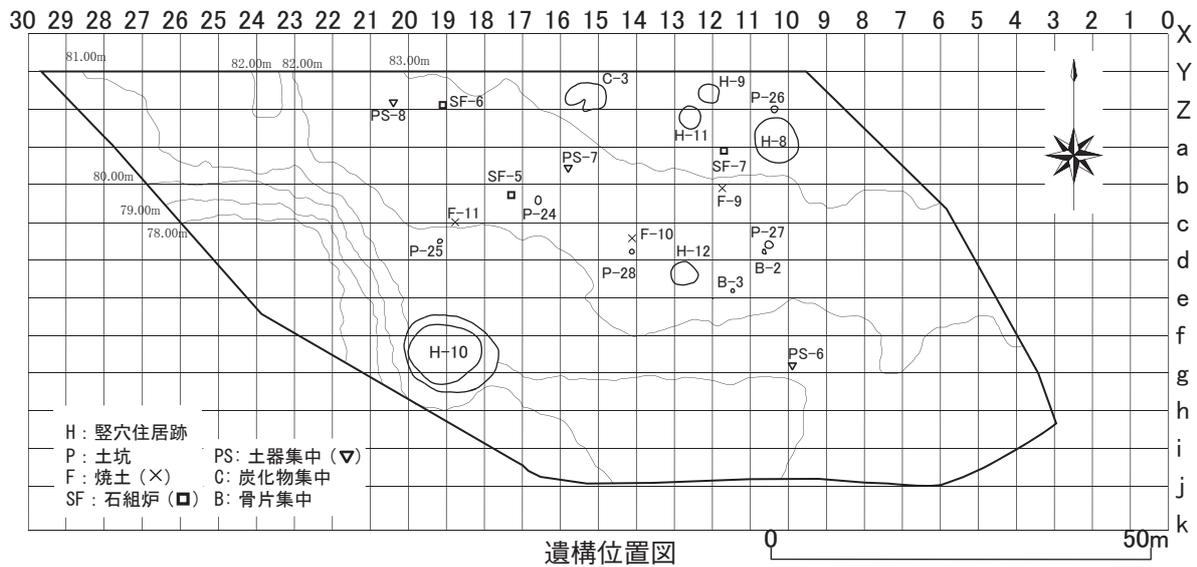
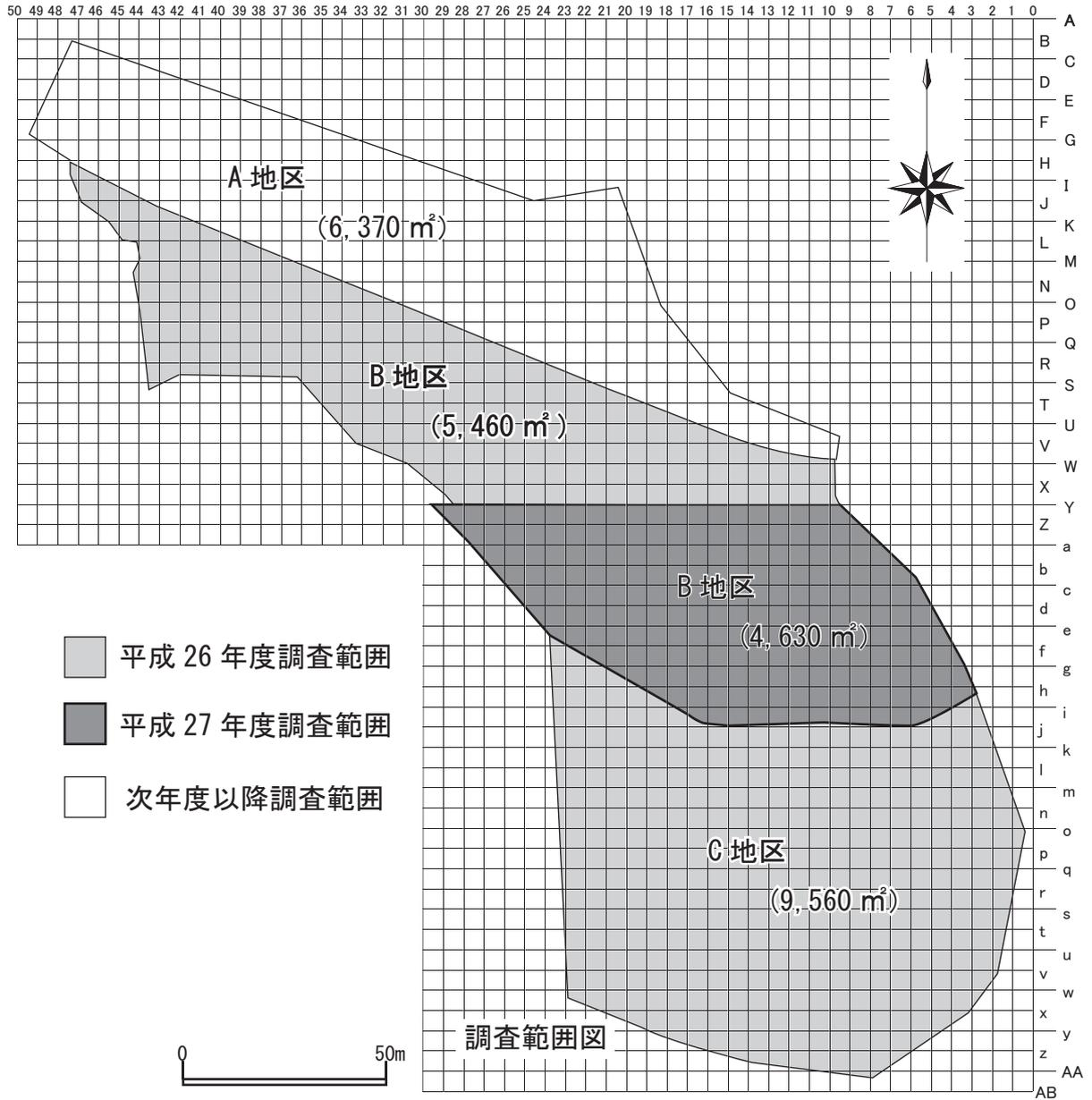
遺構は竪穴住居跡5軒、土坑5基、焼土3か所、石組炉3か所、土器集中3か所、炭化物集中1か所、骨片集中2か所を検出した。竪穴住居跡は平面が円形と楕円形があり、すべて地床炉が確認できた。うちH-8・10は大型で掘り込みが深く、H-10は掘り上げ土を含めると、その規模は最大径12m程になる。H-8は床面から砂岩製、礫岩製の台石や砥石が多数出土し、H-10は黒曜石製の剥片石器や緑色泥岩製の磨製石斧などが多く出土した。H-9・11・12は径2～3mと小型の住居跡で掘り込みが浅く、柱穴は不明であるが、中央に地床炉がある。また、出土遺物はH-8・10に比べると少ない。竪穴住居跡の時期は住居内や周辺の出土遺物から縄文時代後期初頭と考えられる。

土坑は、径0.5～1m程度の円形ないし楕円形の平面で、覆土や坑底面から礫が出土する。

遺物は土器約18,700点、石器約19,000点が出土した。土器は縄文時代後期初頭の余市式、タプコブ式が最も多く、ほかに縄文時代早期、中期のものも出土している。また、土器集中PS-8では縄文時代晩期の爪形文が施された土器も出土している。

剥片石器は黒曜石製の石鏃やスクレイパー。礫石器は緑色泥岩製や片岩製の磨製石斧、砂岩製や泥岩製のたたき石、すり石、砥石などがみられるが、多くは被熱している。これらの石材は厚真川上流域の山間部で入手できるものである。

また調査区南側の灰色の粘土層からは、縄文時代後期初頭の土器集中PS-6や緑色泥岩製の磨製石斧、滑石製の玉が数点出土した。





調査区北側 調査状況



調査区西側 調査状況



竪穴住居跡 H-10 調査状況（縄文時代後期初頭）



竪穴住居跡 H-8 調査状況（縄文時代後期初頭）



石組炉 SF-5



土器集中 PS-6 調査状況（縄文時代後期初頭）



土器集中 PS-6

あつま 厚真町 上幌内4遺跡 (J-13-124)

事業名：厚真ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査

委託者：北海道胆振総合振興局

所在地：勇払郡厚真町字幌内368-1

調査面積：907 m²

調査期間：平成27年5月12日～10月30日

調査員：愛場和人、末光正卓、奥山さとみ、吉田裕吏洋

調査の概要

遺跡は厚真町市街地から北東へ約12km、厚真川左岸、標高約73mの河岸段丘上に立地する。調査は2年目で、昨年度はV層上面のみ調査を、今年度はV層の調査を行った。調査は来年度も実施する予定である。上幌内の「幌内」の語源はアイヌ語で「ポロ・ナイ」、「大きい(親)・沢」という意味がある。この名称が付けられたとされる日高幌内川は、さほど大きな川ではなく、付近のシュルク沢川、オコッコ沢川とあわせ複数の支流が厚真川に流れ込む地点を指す意味であったと考えられる。

基本土層はI層：表土、II層：樽前bテフラ (Ta-b)、III層：黒色土、IV層：樽前cテフラ (Ta-c)、V層：黒色土、VI層：漸移層、VII層：樽前dテフラ (Ta-d) から構成される層である。

遺構と遺物

遺構は竪穴住居跡2軒、土坑1基、Tピット30基、焼土1か所、土器集中4か所を検出した。竪穴住居跡H-1は平面が楕円形で、地床炉がある。床面からは縄文時代後期の土器やつまみ付きナイフ、磨製石斧、砥石などが出土した。H-2は平面が径約2.5mの円形で、掘り込みは浅く、柱穴は不明であるが、床面からは台石などが出土した。Tピットは平面が溝状または楕円形で、楕円形の坑底では杭跡が確認されたものが13基ある。土器集中では、縄文時代早期の東釧路Ⅳ式、中期の円筒土器上層a式、後期の手稲式の土器がまとめて出土している。

遺物は土器約4,900点、石器約6,600点が出土した。土器は縄文時代後期初頭の余市式、タブコブ式が最も多く、ほかに縄文時代早期～中期のものも出土している。

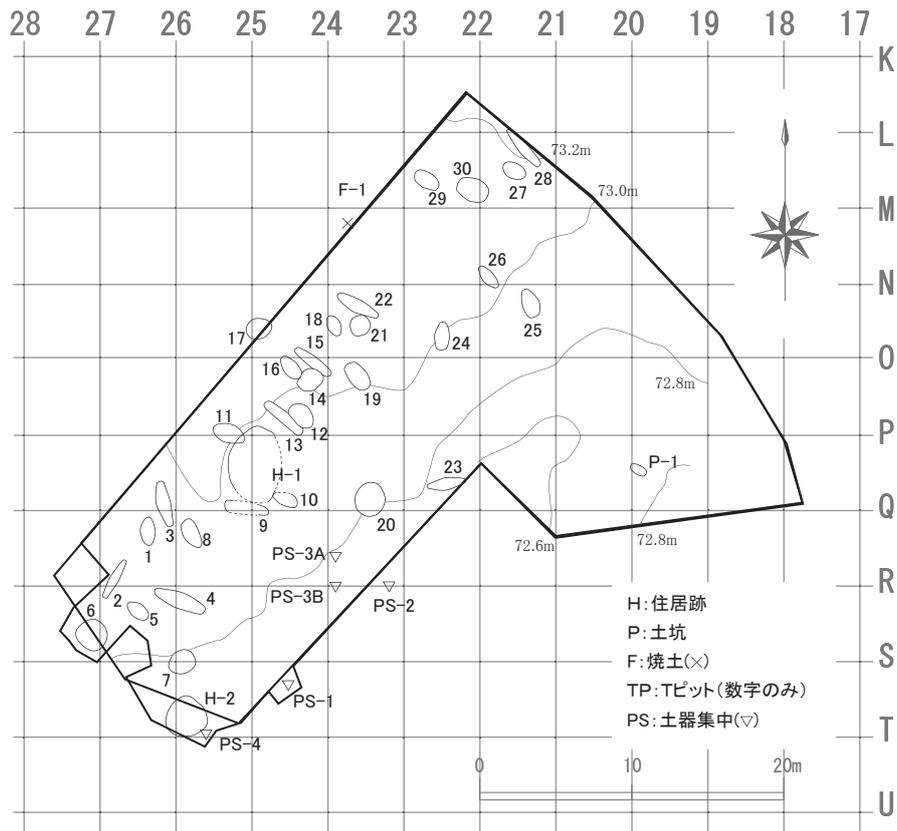
剥片石器は黒曜石製の石鏃やスクレイパーが多く、礫石器では磨製石斧、砂岩製のたたき石、台石、石皿が多く出土している。



調査開始状況



TP-12・13 完掘



遺構位置図



調査状況

あつま 厚真町 上幌内5遺跡 (J-13-125)

事業名：厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査

委託者：北海道胆振総合振興局

所在地：勇払郡厚真町字幌内351-1

調査面積：5,012㎡

調査期間：平成27年5月12日～10月30日

調査員：愛場和人、末光正卓、奥山さとみ、吉田裕吏洋

調査の概要

遺跡は厚真町市街地から北東へ約13km、厚真川左岸、標高約83～85mの河岸段丘上に位置する。平成25年度には工事用道路と現道道の接続部分300㎡の調査が行われ、Tピット13基を検出した。この結果から本遺跡では、Tピットが多数確認されることが予想された。今年度は、5,012㎡の遺構確認調査を実施した。調査区は無名の沢を挟んで東側をR地区、西側をL地区とし、さらに小区画に地区割りし、沢の上流から番号を付した。調査は来年度も行う予定である。

基本土層はI層：表土、II層：樽前bテフラ (Ta-b)、III層：黒色土、IV層：樽前cテフラ (Ta-c)、V層：黒色土、VI層：漸移層、VII層：樽前dテフラ (Ta-d) から構成される層である。また、R地区はVII層がみられず、灰色を呈する水成堆積の粘土層が地山である。

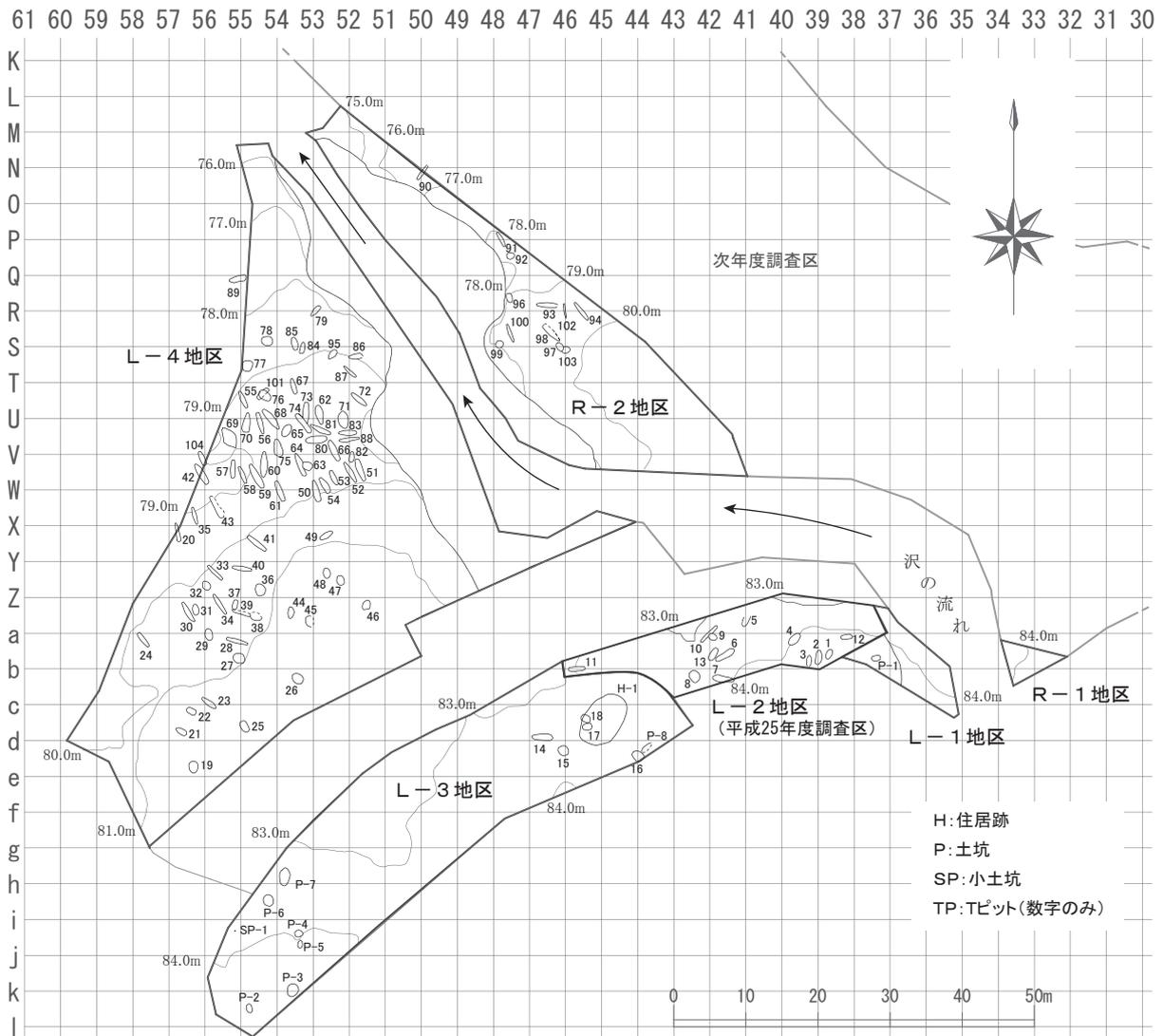
遺構と遺物

遺構は竪穴住居跡1軒、土坑7基、Tピット91基、小土坑1か所を調査した。竪穴住居跡はL-3地区で検出し、平面が楕円形で掘り込みが浅い。出土遺物は土器、剥片石器、礫石器などがみられる。土坑は遺跡の南東側、L-3地区にみられ、平面が円形と楕円形で、覆土や坑底面から土器や礫石器などが出土するものが多い。Tピットは平面が溝状や楕円形、円形のものがあり、L-4地区で多数検出された。とくに溝状のものが多く、これらはさらに長軸の長さが2.8m前後のものと、2m以下のものに分けられる。とくに前者は、T～W-51～56区に集中し、列状のものも確認できた。楕円形や円形ものは、L-4地区の南と北の西側部分でみつきり、集中はみられない。また、杭跡が確認されたものや遺物が出土したものは少ない。Tピットの遺物出土状況は覆土上位に大きい礫石器や礫が多く、覆土中～下位からはほとんど出土していない。

遺物は土器65点、石器924点で、土器は縄文時代早期～後期のものが出土している。剥片石器は黒曜石製の石鏃、礫石器は砂岩製、凝灰岩製のたたき石、すり石、台石、石皿などが出土している。



Tピット 調査状況



遺構位置図



Tピット 完掘

しもかわ かみなよろ
下川町 上名寄 8 遺跡 (F-21-070)

事業名：名寄川河道掘削工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局旭川開発建設部

所在地：上川郡下川町上名寄 11 線河川敷

調査面積：850 m²

調査期間：平成 27 年 9 月 14 日～10 月 29 日

調査員：笠原 興、広田良成

調査の概要

遺跡は、下川町の市街地から西へ約 10km、名寄川中流域の河岸段丘に形成された舌状の丘陵部の先端に位置している。標高は約 117m～125m、名寄川との比高は約 4～12m である。調査区は丘陵傾斜地と河川堆積から成る低位の平坦部で構成されている。

遺跡周辺の地形は、これまでに行われた河川改修工事によって丘陵先端部が削られ、南側には堤防や用水路が作られ、更に旧名寄本線によって掘削されている。「名寄」の地名は、アイヌ語の「ナイ・オロ・プト」(川または沢の中・所の・川口)に由来し、天塩川と名寄川が合流する場所を示している。

今回の調査は、旭川開発建設部が行う天塩川水系河川整備計画の一環で、名寄川の流下能力向上を目的とした河道掘削工事に伴うものである。

名寄川流域や、その支流の丘陵または段丘上には多くの遺跡が所在し、下川町では本遺跡を含め 70 か所の遺跡が記載されている。また、名寄川の下流域に位置する名寄市でも 148 か所の遺跡があり、市内の流域では河川に近い低地部にも遺跡が確認されている。本遺跡が立地する丘陵部周辺には、上名寄 2 遺跡や上名寄 7 遺跡、朝日 1 遺跡、朝日 2 遺跡、朝日 3 遺跡などがあり、旧石器時代から縄文時代にかけての遺跡が分布している。

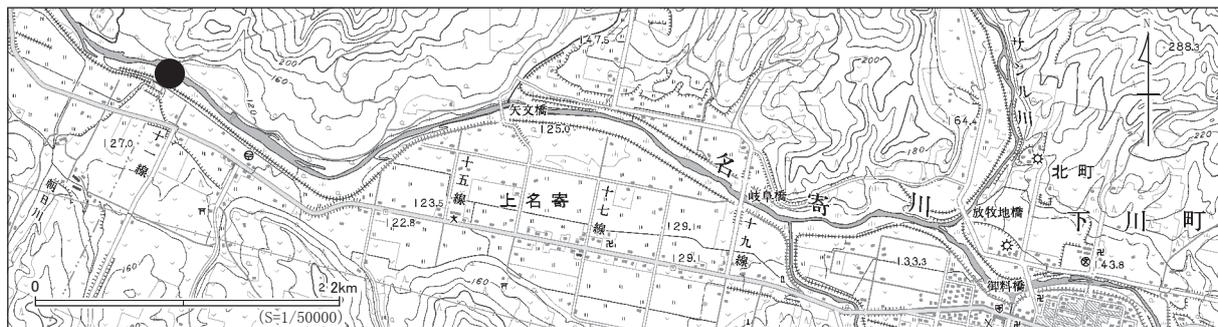
「上名寄 8 遺跡」は、元々「上名寄チャシ跡」として記載されていた地点であった。しかし、平成 25 年度に下川町教育委員会が実施した遺構確認調査の際に、当該地が旧石器時代から縄文時代の遺跡であることが明らかになったため、「上名寄チャシ跡」とは分離して記載されることになった。

遺構と遺物

今回の調査では、低位平坦部から、数十点の拳大の礫集中を検出した。平成 25 年度の調査でも、平坦部から十数点の焼けた礫と炭化物が報告されている。また、25 年度調査の際に見つかった近代の用水路跡の延長線上の一部についても調査を行い、その結果、灌漑用水路の「樋門」を確認した。

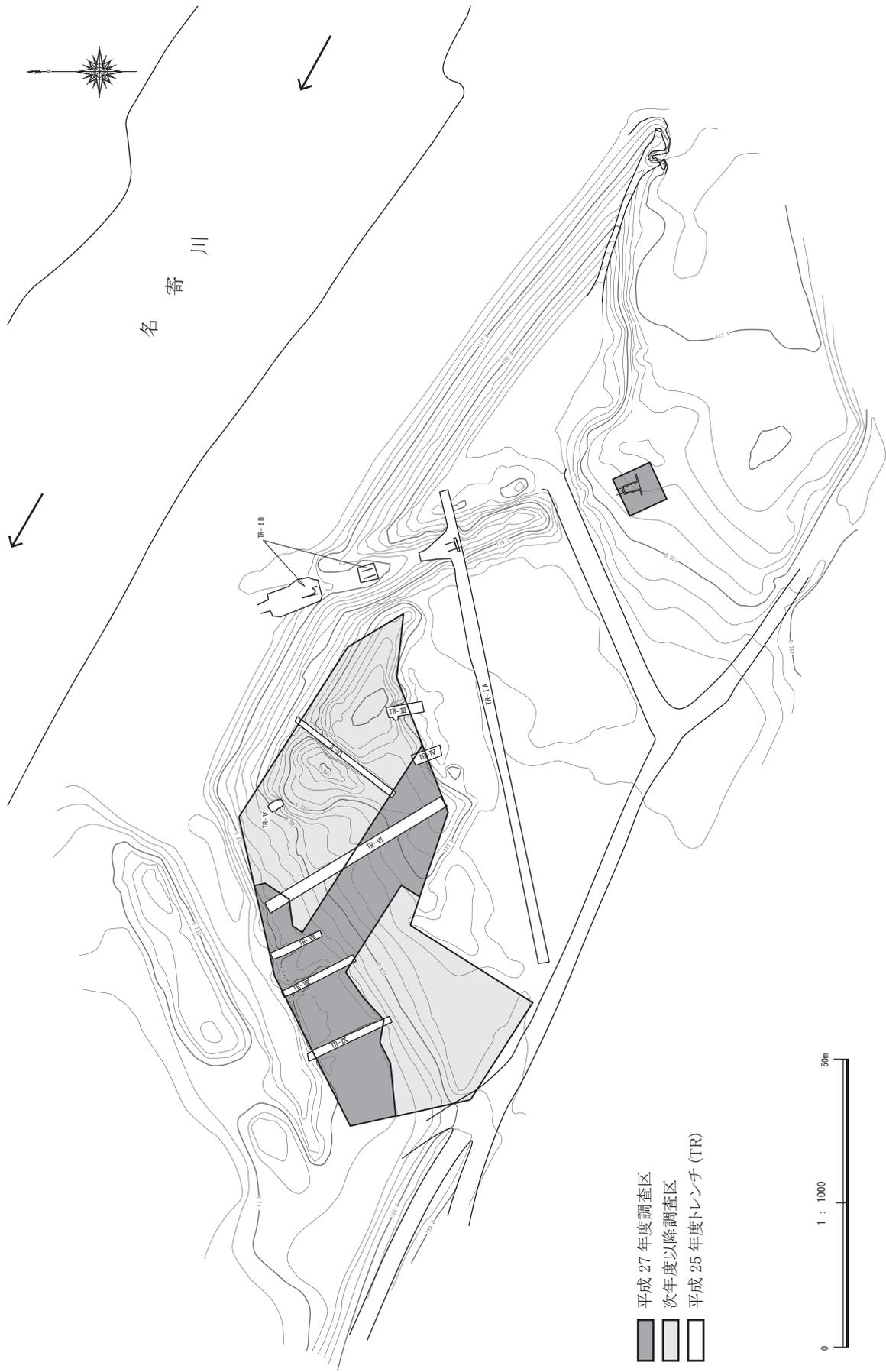
遺物では黒曜石製の剥片や碎片が多く、土器等は出土していない。他には珪化岩製の石核や剥片、また、長さ約 12cm の頁岩製のスクレイパーも出土した。時期は旧石器時代から縄文時代早期が想定される。

調査は来年度も行う予定である。

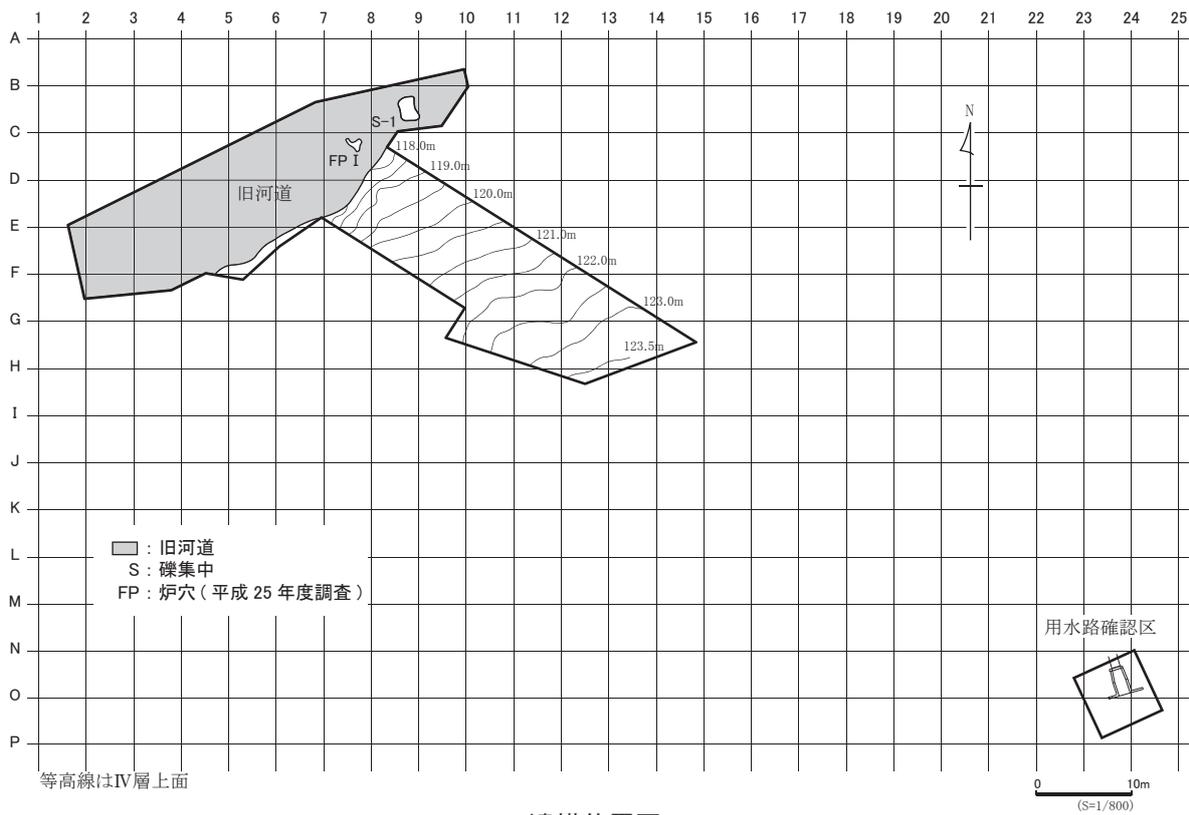


遺跡の位置

国土地理院の数値地図 50000 (地図画像)『北海道-Ⅱ』
(平成 17 年発行)を使用



上名寄8遺跡 全体図



遺構位置図



遺跡全景



丘陵傾斜地 調査状況



低位平坦部 調査状況



灌漑用水路跡「樋門」
ひもん



石器 出土状況



石器 出土状況

ねむろ べつとうがいちばんさわがわ
根室市 別当賀一番沢川遺跡 (N-01-154)

事業名：根室防雪事業改良等工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局釧路開発建設部

所在地：根室市酪陽41-3

調査面積：1,300㎡

調査期間：平成27年6月2日～8月12日

調査員：笠原 興、広田良成

調査の概要

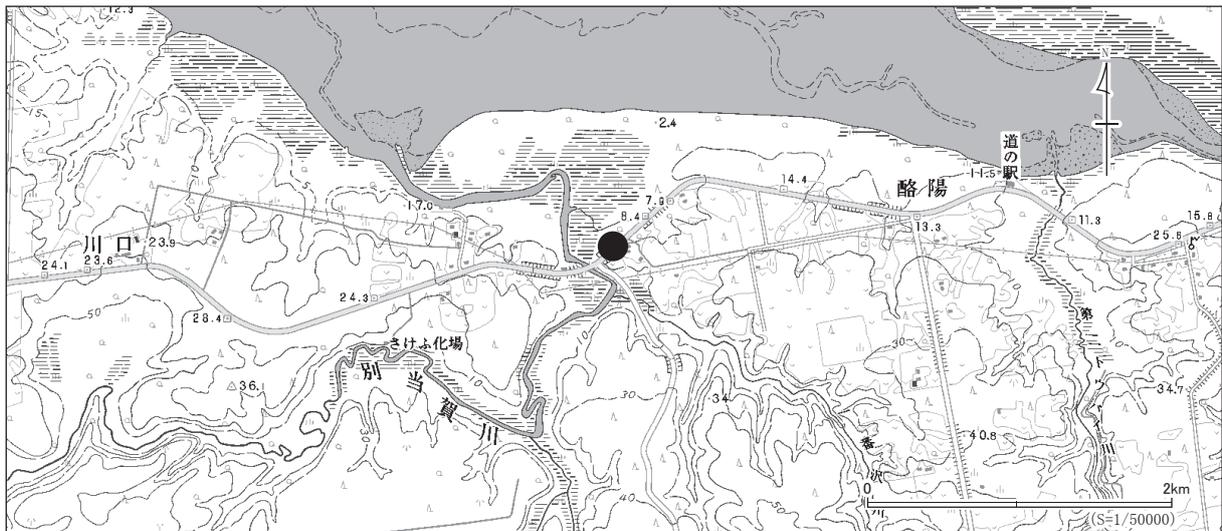
遺跡は根室市街地の南西約17kmに位置する。標高は約5～11mで、風連湖に注ぐ別当賀川の右岸の緩斜面上に立地している。昭和61（1986）年に市道改良工事に伴い、今年度の調査区からみて南西側の地区で根室市教育委員会による発掘調査が行われ、縄文時代中～後期の竪穴住居跡、土坑などの遺構、遺物が確認されている。なお、調査は来年度以降も行われる予定である。

基本層序はⅠ層：表土、Ⅱ層：黒褐色土、Ⅲ層：黒色土、Ⅳ層：摩周テフラ（Ma-f～j）、Ⅴ層：黒色土、Ⅵ層：漸移層、Ⅶ層：黄褐色ロームである。Ⅱ層中には樽前a降下テフラ（Ta-a、1739年降下）ないし駒ヶ岳c2降下火山灰（Ko-c2、1694年降下）とみられる灰白色火山灰が部分的にみられた。遺物の主な包含層はⅡ層及びⅢ層で、Ⅴ層からも遺物が少量出土している。

遺構と遺物

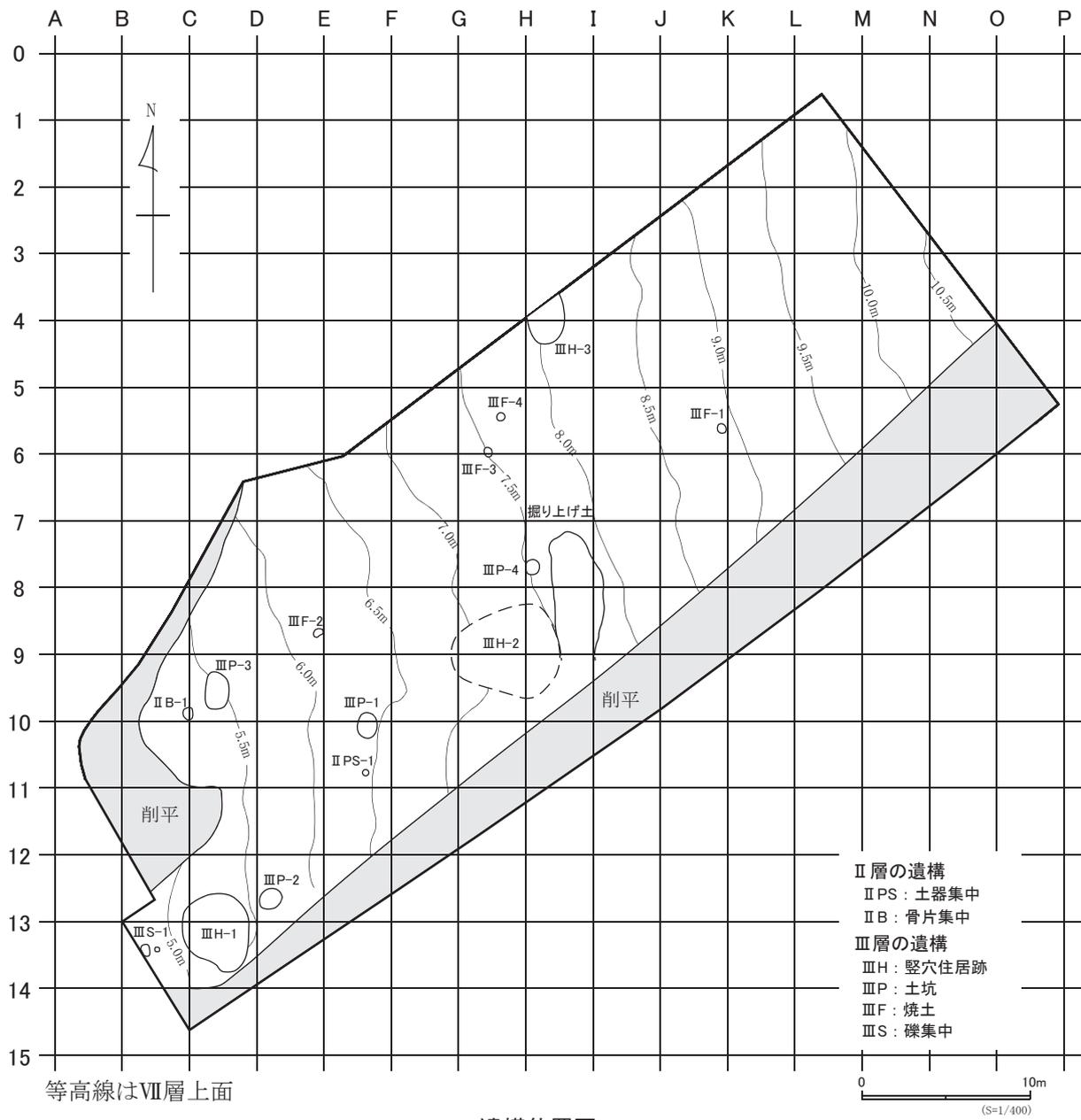
遺構は、Ⅱ層で土器集中1か所、骨片集中1か所、Ⅲ層で竪穴住居跡3軒、土坑4基、焼土4か所、礫集中1か所を検出したが、Ⅴ層での遺構検出はない。時期はⅡ層の遺構が縄文時代晩期～続縄文時代、Ⅲ層の遺構は縄文時代中～後期のものが多い。竪穴住居跡は縄文時代中～後期、北筒式土器の時期と推定され、掘り上げ土を伴うものが1軒みられた。土坑は時期不明なものが多いが、縄文時代晩期の土坑墓を1基確認している。

遺物は、土器約8,200点、石器等約7,200点、合計約15,400点出土した。土器の時期は縄文時代早期、中～晩期、続縄文時代などで、その中では縄文時代晩期のものが多い。石器などでは石鏃、石槍・ナイフ、スクレイパー、砥石などが比較的多く出土している。



遺跡の位置

国土地理院の数値地図50000 (地図画像)『北海道-I』
(平成17年発行)を使用





調査区全景



堅穴住居跡 H-2 調査状況



豎穴住居跡 H-1 (縄文時代中～後期)



土器集中 II PS-1 (続縄文時代)



豎穴住居跡 H-2 (縄文時代中～後期)



豎穴住居跡 H-3 (縄文時代中～後期)



土坑墓 P-4 調査状況 (縄文時代晩期)

木古内町 札苅7遺跡 (B-05-50)

事業名：高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査（泉沢6遺跡外）

委託者：国土交通省北海道開発局函館開発建設部

所在地：上磯郡木古内町字札苅576-11、576-13

調査面積：1,000 m²

調査期間：平成27年5月12日～7月31日

調査員：袖岡淳子、芝田直人、直江康雄

調査の概要

遺跡はJR札苅駅より北へ約400mに位置し、海岸に沿う低位の海成段丘と後背の丘陵地形との変換点に立地している。南西へ550m海側には北海道の亀ヶ岡文化の遺跡として知られる札苅遺跡がある。

調査は平成25年から始まり、本年度で3年目の調査になる。調査範囲は丘陵から流下する幾筋かの沢により開析された南向きの斜面で、沢に近いところでは氾濫原となり、南東端で低湿部になる。今年度の調査区は遺跡の南東側、沢に面した標高19～26mの斜面上で、低湿部を除いた1,000 m²である。過年度の調査で、遺跡は標高20～32mの緩斜面上で縄文時代中期前半～同後期後葉の住居跡を中心とした集落跡であることが判っている。調査範囲の南東端、低湿部では平成26年度のトレンチ調査により縄文時代晩期の遺物が多く出土している。

基本層序はⅠ層：表土、Ⅱ層：黒色土（この中に駒ヶ岳d降下火山灰層（Ko-d、1640年降灰）が遺構の窪みやわずかな落ち込みに堆積）、Ⅲ層：暗赤褐色土（上面に白頭山-苫小牧火山灰（B-Tm、10世紀降灰）がKo-dと同様のあり方で見られる）、Ⅳ層：黒色～暗褐色土、Ⅴ層：漸移層、Ⅵ層：黄褐色ローム質土～凝灰岩礫層である。標高20m付近は丘陵と段丘の境界で、Ⅳ層～Ⅵ層上位まで凝灰岩礫を多く含む崖錐堆積の暗褐色土となり、層界は不明瞭である。

遺構と遺物

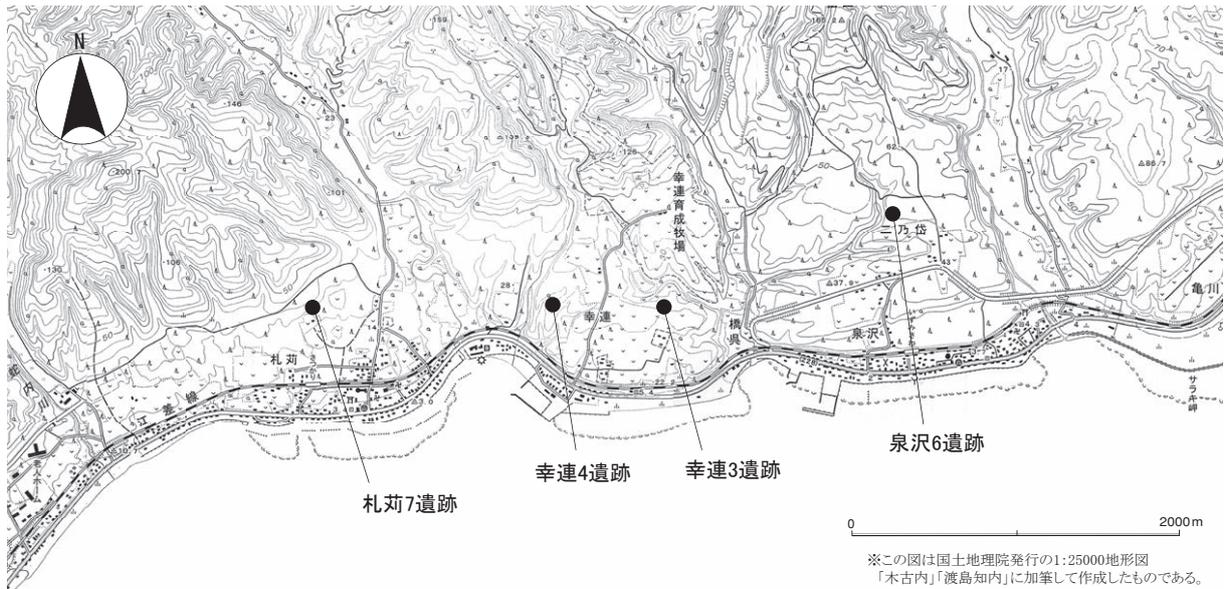
今年度は盛土遺構3か所、竪穴住居跡2軒、土坑36基、焼土11か所、剥片集中1か所を検出した。

盛土遺構は調査区北側から南側の沢頭にかかる急斜面で確認した。主体部は調査区外北側にあると考えられ、検出した範囲は盛土の南側の縁辺である。層序観察すると、B-Tmが疎にみられるⅢ層上位（層厚7～10cm）の下に盛土遺構があり、層厚は最大で1.2mである。時期は出土遺物と層序から縄文時代後期後葉の堂林式期と考えられる。

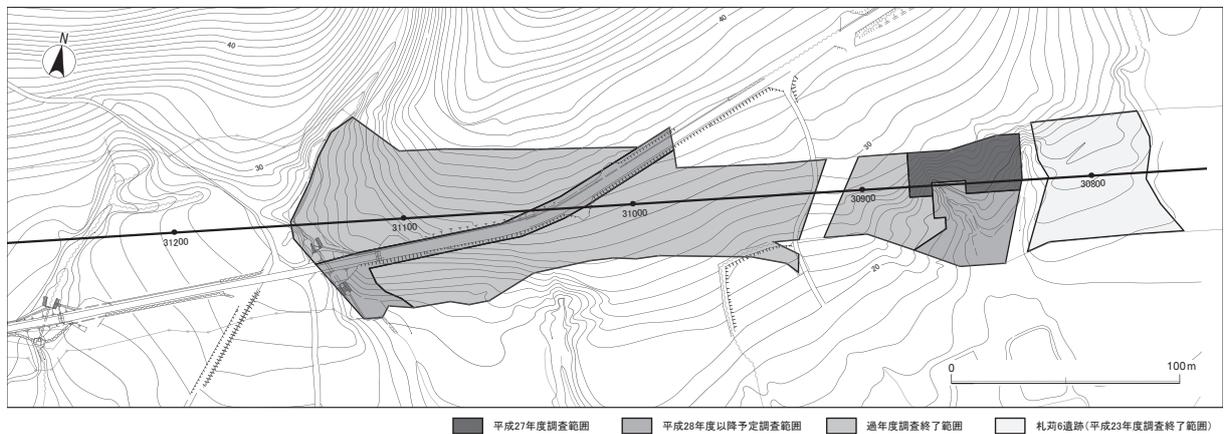
竪穴住居跡は縄文時代中期後半1軒、後期後葉1軒を検出した。いずれも調査区北端での確認で、主体部は調査区外にある。

土坑、焼土は主に縄文時代中期後半～後期前葉に属し、丘陵と段丘の境界より低いところでは検出しなかった。土坑は斜面上部に多くみられ、特に昨年度調査区からの続きとなるJ・K4区において濃密に分布する。検出面はいずれもⅣ～Ⅵ層で、盛土層より下位で確認された。主体となる規模は径1m弱、深さ0.5m前後で、断面形がフラスコ状となるものも含まれる。遺物はほとんど出土していない。また特徴が他と異なる土坑としてP-178・202がある。P-178は特に大型のフラスコ状のもので斜面中央部にあり、確認面からの深さ1.3mを測る。同規模の土坑は斜面に直交する並びで昨年度調査区に連続して確認されている。また、P-202は長径1.5mを測る平面が長楕円形の土坑で、坑底面の北端に焼土を検出した。特徴と周辺の遺物から縄文時代中期後半の土坑墓である可能性がある。

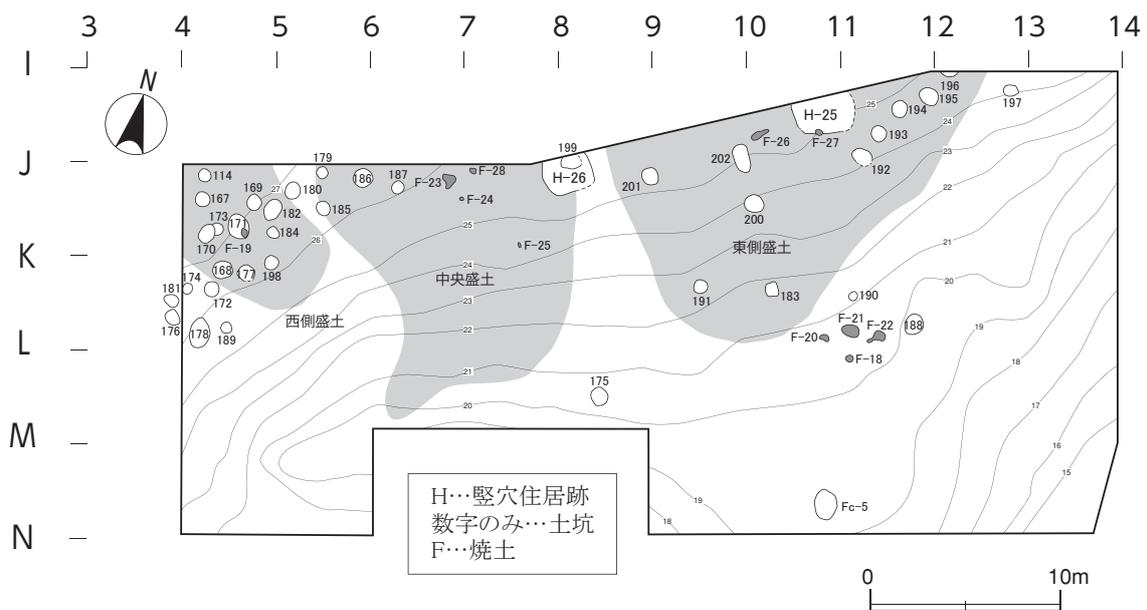
遺物は縄文時代中期前半～晩期後葉のものが全体でおよそ10万点出土した。土器、石器、異形石器、土偶、環状土製品、スタンプ形土製品、石棒などがみられる。



遺跡位置図



調査範囲と周辺の地形



遺構位置図



調査状況



中央盛土遺構（縄文時代後期後葉）土層断面



中央盛土 遺物出土状況



盛土遺構出土 土偶



盛土遺構出土 石棒・石冠



竪穴住居跡 H-25 遺物出土状況



H-25 (縄文時代後期後葉)



竪穴住居跡 H-26 (縄文時代中期後半)と盛土遺構 土層断面



土坑 P-178 土層断面



土坑 P-184 遺物出土状況

木古内町 泉沢6遺跡 (B-05-61)

事業名：高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査（泉沢6遺跡外）

委託者：国土交通省北海道開発局函館開発建設部

所在地：上磯郡木古内町字二乃岱4-94、4-191、4-194、4-204

調査面積：1,668 m²

調査期間：平成27年7月1日～7月17日

調査員：袖岡淳子、芝田直人、直江康雄

調査の概要

遺跡は木古内市街の北東約6.8km、JR泉沢駅の北900m、現海岸線より1km程内陸に位置し、東西を亀川と橋呉川に挟まれた標高30～40m程度の海成段丘上に立地している。同一段丘面上には西側に昨年度調査を行った泉沢5遺跡、南西側に木古内町教委が調査した泉沢2遺跡があり、本遺跡の間は両遺跡とも橋呉川と合流する東西方向の支流によって区切られている。調査区の地形は西側が急崖、中央部が平坦で東側に向かって緩やかに傾斜している。

基本土層は、Ⅰ層：表土、Ⅱ層：黒色土層、Ⅲ層：暗～褐色土層、Ⅳ層：漸移層、Ⅴ層：黄褐色ローム質土層である。Ⅲ層は他の遺跡の遺物包含層に比べ黒色の度合いが弱く、Ⅳ層との層界が不明瞭な地点が多い。また部分的ではあるが、Ⅱ層下部に灰褐色の駒ヶ岳d火山灰（Ko-d、1640年降灰）、黄褐色の白頭山-苫小牧火山灰（B-Tm、10世紀降灰）が薄く堆積している。遺物包含層はⅢ・Ⅳ層であるが、遺物の大半はⅢ層から出土している。

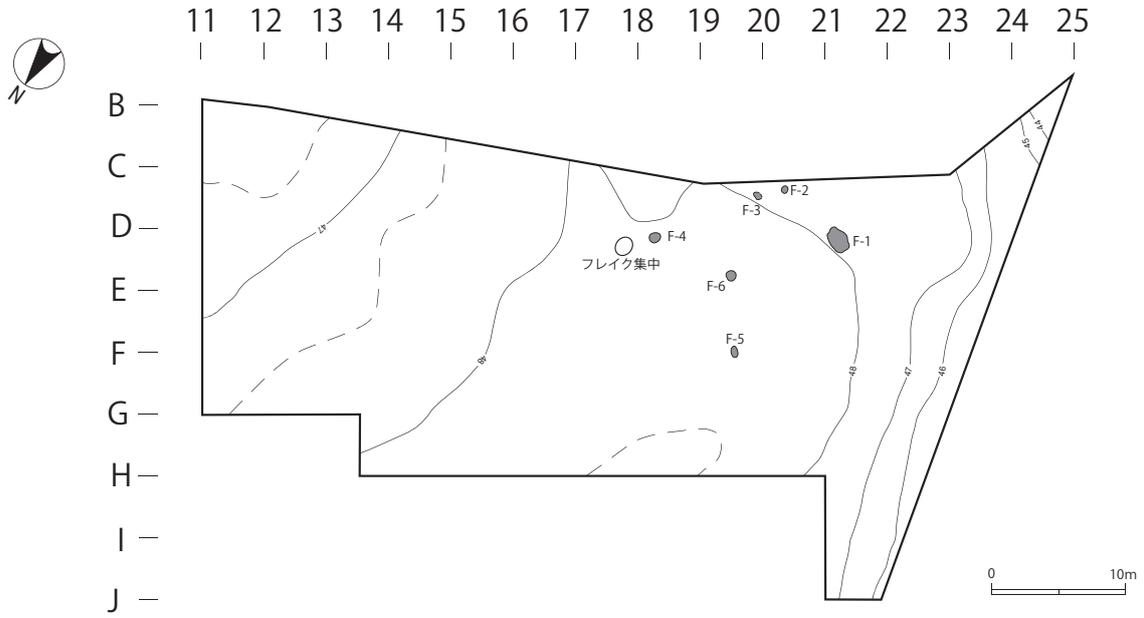
遺構と遺物

遺構は、焼土（F）6か所、フレイク集中1か所を確認した。いずれも調査区南側の地域に偏って分布する。

遺物は土器約1,500点、石器・礫など約6,500点、計約8,000点出土した。土器は縄文時代早期～後期のものがあり、早期後半の東釧路Ⅲ式～中茶路式相当のものが比較的多くみられた。石器は両端が尖頭形の石鏃やつまみ付きナイフ、スクレイパー、すり石、たたき石、台石・石皿などがある。使用された石器の石材は頁岩が大多数を占めている。



調査範囲と周辺の地形



遺構位置図



南西側 調査状況



南側 調査状況



フレイク集中 調査状況

木古内町 幸連3遺跡 (B-05-59)

事業名：高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局函館開発建設部

所在地：上磯郡木古内町字幸連90ほか、字橋呉55

調査面積：9,709㎡

調査期間：平成27年5月12日～8月25日

調査員：皆川洋一、鈴木宏行、坂本尚史、谷島由貴

調査の概要

幸連3遺跡はJR木古内駅から北東に5.3km、標高23～28mの海岸段丘上に立地する。調査区北部には橋呉川支流の沢頭があり、調査区の北側にはこれらの沢によって開析された斜面地形が形成されている。調査区は南側に位置する標高27m前後の高位の平坦面と、緩斜面地形を挟んで北側に位置する低位の平坦面に区分することができる。遺構は高位部と低位部の両者にまとまって分布し、遺物は沢頭に近い低位部で多く認められた。

基本土層はⅠ層：表土、Ⅱ層：黒色～茶褐色土、Ⅲ層：黒褐色土、Ⅳ層：漸移層、Ⅴ層：黄褐色土である。大型遺構の覆土上位などでは、Ⅱ層中に駒ヶ岳d火山灰 (Ko-d、1640年降下) と白頭山-苫小牧火山灰 (B-Tm、10世紀降下) と考えられる堆積が観察された。遺物は主にⅢ層から出土し、確認できた遺構の構築面は全てⅢ層中と判断された。

遺構と遺物

遺構は盛土1か所、竪穴住居跡15軒、土坑16基、Tピット1基、焼土26か所、土器集中3か所、フレイク集中6か所を検出した。各遺構は主に縄文時代中期前半から後半にかけて形成されたと考えられる。

竪穴住居跡は調査区南部の高位部で9軒がみられ、①中期前半のサイベ沢Ⅷ式、見晴町式期のものが中央部付近に2軒 (H-11・12)、②後期初頭とみられる先端ピットと石組炉のある略円形の住居が東部に3軒 (H-2・4・6) 認められた。見晴町式期の住居床面からは完形の小型土器3個体がまとまって出土した。また、②のうち2軒 (H-2・6) は焼失住居であった。北部の低位部でも住居跡5軒を検出したが、時期判断できたものは中央部でみつかった後期前葉の天佑寺式～トリサキ式期の3軒 (H-7・8・10) である。このうちH-7には壁柱穴とみられる径8cm前後、深さ10～20cmの35基の小ピットが、径4.5mの円形におよそ等間隔で配列されていた。これら竪穴住居のうち、覆土中に石組炉が構築されたものが3軒 (H-1・10・12) 認められた。

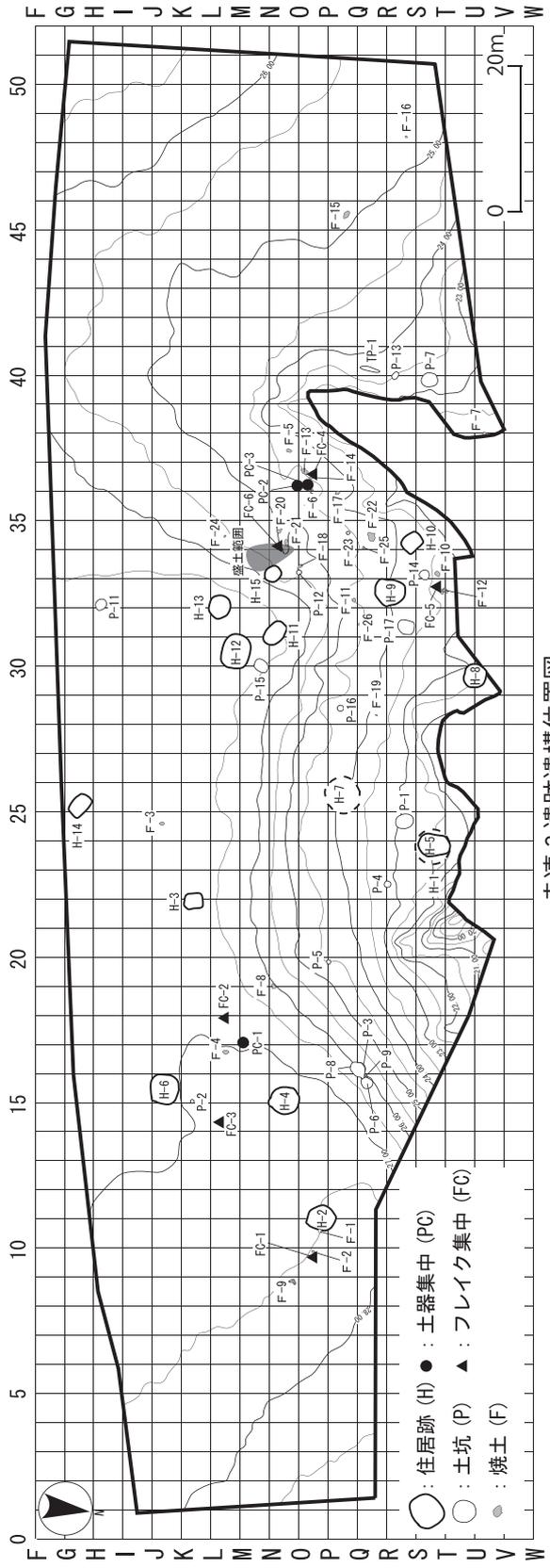
土坑は径1m以下の小型のもの、径1.6mで深さ1mを超えるフラスコ状のもの (P-3・6) のほか、径2.5m、深さ0.6mで覆土と坑底面から黒曜石剥片や手稲式期の一括土器などの遺物が多量に出土したもののなどを確認した。

焼土は主に調査区中央部の緩斜面から低位部にまとまって分布しており、平坦地に構築された石組炉も認められる。

遺物は土器、石器などを合わせ約5万点が出土した。土器の時期は中期前半の円筒土器上層b式～後期中葉の手稲式であるが、主体は中期後半～後期前葉である。遺物は中期前半が調査区中央部の高位部から低位部にかけて、中期後半～後期初頭が調査区東部の高位部に、後期前葉が調査区中央部の低位部に主に認められ、同時期の遺構と同様の分布傾向を示す。石器は頁岩を主要石材とした石鏃、石槍、つまみ付きナイフ、スクレイパーや石斧、扁平打製石器、北海道式石冠、石皿などの礫石器がある。このほか特徴的なものとして、琥珀製の垂飾や黒曜石製の石槍がH-11床面などから出土している。また、石冠様石器が包含層から出土している。



幸連3・4遺跡と周辺の地形



幸連3遺跡遺構位置図



調査状況



竪穴住居跡 H-11 (縄文時代中期前半)



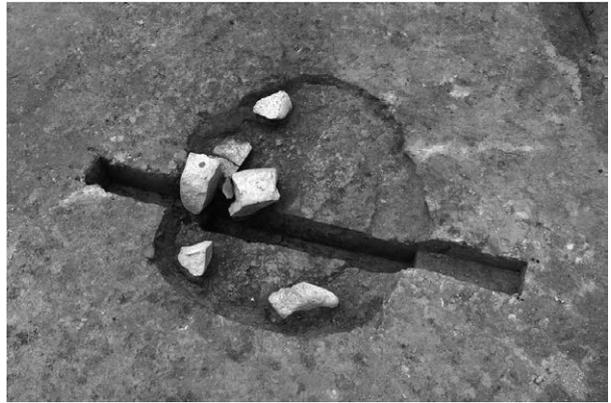
H-11 床面土器 出土状況



H-11 覆土中石組炉



竪穴住居跡 H-2 (縄文時代後期初頭)



H-2 石組炉



竪穴住居跡 H-10 (縄文時代後期前葉)



土坑 P-3・6 (縄文時代後期前葉)



土坑 P-1 (縄文時代後期中葉)



P-2 坑底遺物 出土状況

木古内町 幸連4遺跡 (B-05-60)

事業名：高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局函館開発建設部

所在地：上磯郡木古内町字幸連112ほか

調査面積：7,978㎡

調査期間：平成27年5月12日～11月2日

調査員：皆川洋一、鈴木宏行、坂本尚史、直江康雄

調査の概要

幸連4遺跡はJR木古内駅から北東に約5km、標高25～28mの海岸段丘上に立地する。幸連3遺跡とは町道幸連線を挟んだ西側に隣接して位置する。調査区は北側から流下し海に注ぐ三本の深い沢地形により分断され、東側から順にA・B・C地区と区割りした。各地区とも北東から南西に伸びる舌状の地形となっている。基本土層は幸連3遺跡とほぼ同様だが、C地区についてはⅢ層中に厚さ20～60cmの黄褐色～褐色粘質土層（盛土層）を900㎡ほどの範囲で確認した。同範囲については、盛土層によって分離された盛土遺構上位のⅢ層をⅢ上層、同下位のものをⅢ下層として分層した。遺物は主にⅢ層と盛土層から出土し、確認できた遺構の構築面もこの二つの層と判断された。

C地区については調査開始前から大型竪穴住居跡と判別できる明瞭な窪みを認めることができた。この窪みは調査区外の南北に続く舌状の地形上に連続してみられ、竪穴群を形成している。

遺構と遺物

遺構は全体で竪穴住居跡24軒、土坑47基、焼土17か所、フレイク集中11か所を検出した。また、C地区西側の調査区境界に接する段丘縁辺部において廃棄場と考えられる土器、石器などの集中域を確認した。

A地区では土坑2基と焼土1か所、B地区では焼土5か所を確認した。いずれも時期は不明である。B地区では後期中葉の土器がまとまって出土している。

C地区では遺構、遺物が高密度に検出され、時期は前期後半の円筒土器下層b式、d式期を主体とし、少量ながら中期後半の大安在B式、後期初頭の天佑寺式期のもも検出されている。調査区内の地形は、西部に位置する標高27m前後の高位部、東向きの緩斜面、東部に位置する標高23m前後の低位部に大きく分けることができる。高位部の西側及び低位部の東側は沢地形に連続する急崖となっている。

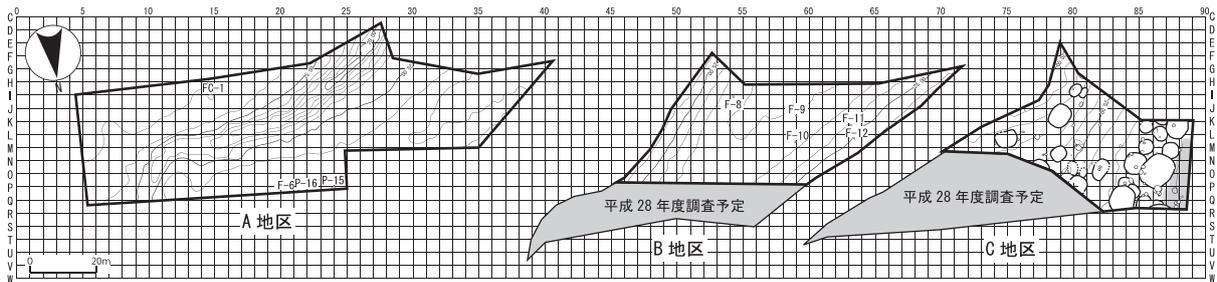
高位部では竪穴住居跡や土坑が密に構築され、重複も認められた。同範囲に位置する長径10m前後の大型住居（H-1～4）は円筒土器下層d式期のもので、平面は隅丸方形から楕円形、壁の外周に周堤状に掘上げ土を巡らせるなどの特徴がみられた。高位部のほぼ全面に及ぶ500㎡ほどの範囲は、これら大型住居の掘り上げ土によって覆われていたが、その下位から円筒土器下層b式期の長径4～8mの円形から楕円形を呈する小、中型竪穴住居跡10軒（H-9・10・13～19・21）が検出された。また高位部の西側には、前述した廃棄場とみられる範囲が住居竪穴の掘り上げ土の下位から検出され、出土した土器より小・中型住居跡と同じ下層b式期に形成されたものと判断できた。高位部ではこのほか、大型住居跡H-1・4廃絶後の壁周辺から盛土にかけて、時期不明のフラスコ状土坑が12基ほど構築されていた。

緩斜面から低位部西側にかけては厚さ20～40cm程の盛土遺構（以下M層）が450㎡ほどの範囲に分布していた。M層はロームを主体とする比較的均質な土質の褐色土で、遺物量は少ない。緩斜面から低位部では、高位部と比較するとやや疎らな遺構分布となるが、同範囲の竪穴住居跡のうち、主に中央から北側に位置する5軒（H-6～8・12・20・25）はM層下位のⅢ下層から構築されていた。これらは長径は3～8mほどで隅丸方形から楕円形を呈し、その時期は出土遺物から円筒土器下層b式期及びd式

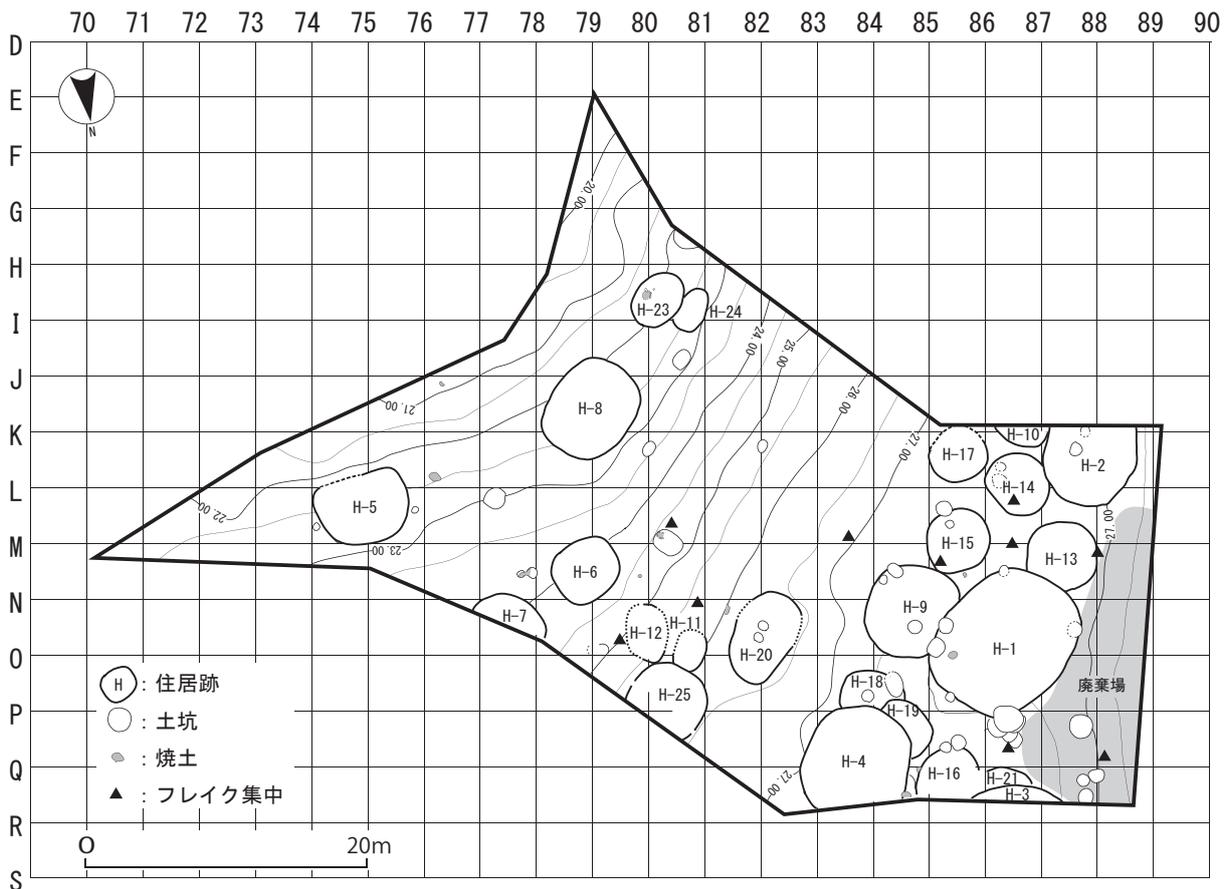
の可能性が高い。

中期後半以降の遺構は、H-5・6・8の覆土中に石組炉や焼土を形成しており、H-5・8にはこれに伴うと考えられる支柱穴や壁柱穴の配列が認められた。堅穴住居廃絶後の埋まりきらない窪みを利用して住居を構築したと考えられる。

遺物は土器・石器など約175,000点が出土した。来年度以降に整理作業を予定している。



幸連4遺跡遺構位置図



C地区遺構位置図



幸連 4 遺跡 C 地区 鳥瞰



幸連 4 遺跡 C 地区 俯瞰



高位部調査状況



大型住居跡 H-1 完掘状況（縄文時代前期後半）



H-1 土層堆積状況



中型住居跡 H-9 完掘状況（縄文時代前期後半）



H-9 床面遺物出土状況



土坑 P-18 完掘状況



土坑 P-5 断面・遺物出土状況



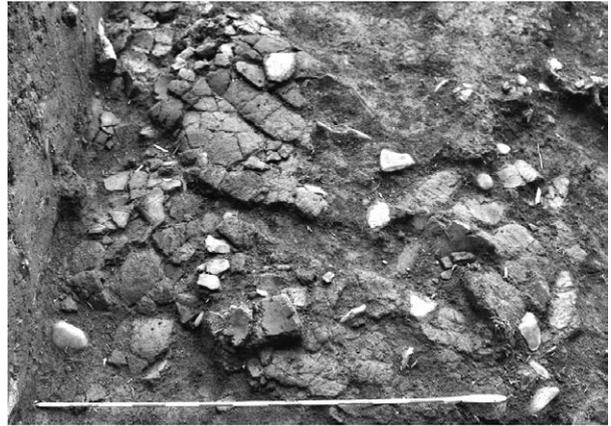
H-8 覆土上部石組炉検出状況（縄文時代後期前葉）



H-8 覆土上部石組炉



土器廃棄場（縄文時代前期後半）



土器廃棄場の個体土器出土状況



緩斜面土層堆積状況 盛土層断面



緩斜面調査状況



低位部調査状況

3 現地研修会の報告

平成27年9月3日（木）は帯広市、4日は厚真町・千歳市に場所を移動して、現地研修会を行った。

3日帯広市での研修は北海道立埋蔵文化財センターの指定管理業務「市町村担当職員出前研修会」との合同開催である。今回の市町村担当職員出前研修会は、「遺跡・遺物の公開活用」のシリーズ化のうち、十勝地方や特に帯広市での埋蔵文化財の発掘調査とその歴史、埋蔵文化財の活用や保護意識の啓発の取り組み、陸別町ユクエピラチャシ跡の史跡整備と普及啓発活動について受講し研修を積むこととした。講義は帯広百年記念館に会場を設けて行った。

最初の講義は、30年以上帯広の発掘調査を主導し、十勝の考古学を支え成果を広めている帯広百年記念館館長の北澤実氏による「十勝の埋蔵文化財」で、十勝地方での考古学的調査の歴史と調査内容が示され、先駆者・指導者としての斎藤米太郎、明石博志、後藤秀彦、佐藤訓敏各氏らの業績が説かれた。次にやはり20年以上にわたり帯広の発掘調査を主導し、特に後期旧石器・縄文草創期・早期研究において十勝地方の位置づけを明確にした帯広百年記念館副館長の山原敏朗氏による「帯広市の埋蔵文化財」では、帯広市内の旧石器遺跡、縄文草創期・早期は八千代・大正遺跡群を軸にして、詳細な時期・編年の分析が示された。次の陸別町教育委員会 大鳥居仁氏の「史跡の調査と整備」講義では、史跡ユクエピラチャシ跡整備の計画・発掘調査・整備・公開活用と普及啓発活動が現状と課題を交えて語られ、低予算・住民との関係・継続などの問題に考えさせられるものがあった。市町村担当職員出前研修の最後のプログラムは、北澤館長の案内・解説による帯広百年記念館展示室の見学である。やはり埋蔵文化財関係の展示が目玉されたが、山原氏の講義で示された遺物の大半は西帯広の埋蔵文化財センターに収蔵展示されているとのこと。北澤・山原両氏の厚意と協力により、当センターの職員研修の本日の最終プログラムに市埋蔵文化財センター収蔵展示を組み込み、市町村担当職員研修参加者も自由参加とした。当センター職員研修の道立帯広美術館見学は主に「草月流秘蔵コレクション展」で埋蔵文化財等を見学。その後バス移動し西帯広にある帯広百年記念館埋蔵文化財センターの収蔵展示室で、主に旧石器・縄文草創期・早期の遺物を北澤・山原両氏の案内・解説で見学した。多忙な中、会場設定や講義・解説や情報交換会の対応をしていただいた北澤・山原・大鳥居各氏に深く感謝いたします。

4日の当センターの職員研修では厚真町に移動し、まず厚真町教育委員会の本郷発掘調査整理作業所において乾哲也氏の案内・解説で、厚幌ダム関連遺跡の縄文時代からアイヌ文化期にわたる多種多様な遺物を見学。次に午後から当センター調査のオッコ1遺跡の縄文時代前期の盛土遺構等を担当の立田主査の解説で見学した。移動して千歳市で昨年度から引き続き当センター調査のトプシナイ2遺跡の川岸の斜面から低位部に至る遺跡の調査状況を芝田主査の解説で見学した。

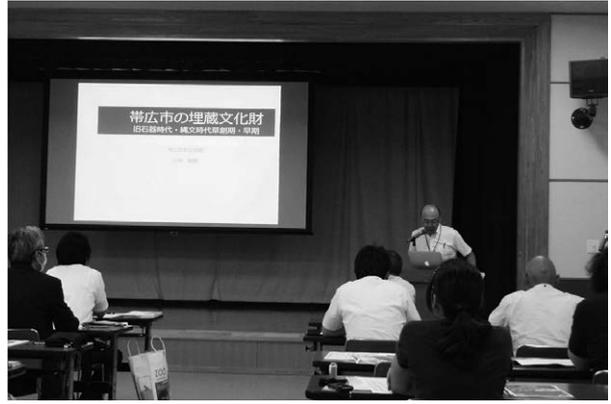
以下、研修会の日程を示す。

9月3日（木） 当センター 集合 バス移動
帯広百年記念館 講義・見学
同埋蔵文化財センター 見学
帯広市 情報交換会・宿泊

9月4日（金） バス移動
厚真町教育委員会発掘調査整理作業所（本郷）見学
厚真町オッコ1遺跡見学（当センター調査遺跡）
千歳市トプシナイ2遺跡見学（当センター調査遺跡）
当センター 解散



研修 1 北沢実氏



研修 2 山原敏朗氏



研修 3 大鳥居仁氏



研修 4 帯広百年記念館見学



市町村出前研修会



厚真町教育委員会整理事務所見学



厚真町オッココ1 遺跡見学



千歳市トプシナイ2 遺跡見学

4 協力活動及び研修

(1) 協力活動（日付は平成27年のもの）

ア 発掘現場見学

*根室市 別当賀一番沢川遺跡

7月25日 北海道開発局根室道路事務所・根室市教育委員会
市政ウォッチングねむろ遺跡見学（24名）

*千歳市 トプシナイ2遺跡

7月27日 千歳市教育委員会
平成27年度文化財普及啓発事業体験学習会「縄文の旅」体験発掘（40名）

*木古内町 幸連3遺跡、幸連4遺跡

7月30日 七飯町教育委員会
歴史館ジュニア探検クラブ体験発掘（30名）

*厚真町 オコッコ1遺跡

8月29日 2015年度北海道考古学会遺跡見学（45名）

*木古内町 幸連4遺跡 協力活動及び研修

9月3日 木古内町教育委員会
秋田県北秋田市立鷹巣西小学校6年生体験発掘（13名）遺跡見学

*木古内町 幸連4遺跡

9月29日 木古内町教育委員会
木古内町文化財調査委員・木古内町教育委員会職員遺跡見学（8名）

*木古内町 幸連4遺跡

10月8日 木古内町教育委員会遺跡見学（15名）

*千歳市 根志越5遺跡

10月6日 千歳市教育委員会
千歳高星大学（高齢者支援事業）遺跡見学（48名）

イ 委員会等の会議

*全国埋蔵文化財法人連絡協議会

6月18・19日 平成27年度総会（長野県長野市 中田・葛西・中村）

7月16・17日 コンピュータ等研究委員会

（札幌市ほか 中田・山田・和田・長沼・葛西・倉橋・作田）

10月22・23日 北海道・東北地区会議（岩手県奥州市 山田・礪田・倉橋）

12月10・11日 平成27年度研修会（広島県広島市 今本・坂本（尚）・立野）

*鈴木三男

6月19・20日 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（A）課題番号25242022

「日本の縄文・弥生時代遺跡出土編組・繊維製品等素材の考古植物学的研究打ち合わせ会議
（東京都 田口）

*洞爺湖町教育委員会

12月1・2日 平成27年度国指定史跡入江・高砂貝塚保存整備委員会会議
（洞爺湖町 長沼）

ウ 調査指導および講演会等の講師

*千歳市教育委員会

2月22日 平成26年度文化財普及啓発事業公開講座講師（千歳市 直江）

*北海道大学大学院医学研究科長

4月7日 科学研究費助成事業「黒曜石水和層法による異なる気候帯における先史遺跡の年代推定」に関する資料調査（遠軽町 直江）

*はまなすプロバスクラブ

5月19日 第279回例会講師（札幌市 長沼）

*千歳市教育委員会

8月1日 平成27年度文化財普及啓発事業体験学習会『石器をつくろう!』
講師（千歳市 直江）

*森町教育委員会

10月21・22日 町内遺跡発掘調査および今後の計画について（森町 長沼）

*日本植生史学会

11月7～9日 平成27年度大会実行委員長（札幌市ほか 田口）
平成27年度大会実行委員・講師（札幌市ほか 三浦）

*南北海道考古学情報交換会

12月5・6日 南北海道考古学情報交換会（函館市 直江・鈴木（宏）・坂本）

*北海道立埋蔵文化財センター

12月11日 北海道文化財担当職員等研修会講師（江別市 福井）

*北海道考古学会

12月12日 平成27年度遺跡調査報告会（札幌市 富永・立田・坂本）

*根室市教育委員会

12月18日 平成27年度根室市歴史と自然の資料館講演会（市民文化センター）
講師（根室市 三浦）

- エ 東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査のための職員の出向（平成25年度から）
出 向 先 （公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
出 向 期 間 平成27年4月1日～平成28年3月31日
出 向 者 佐藤 剛（3年目）

(2) 研修（日付は平成27年のもの）

ア 外部研修

*文化庁

2月5～7日 平成26年度第2回埋蔵文化財担当職員等講習会
（岡山県岡山市ほか 中田・袖岡・芝田・直江）

8月26～28日 平成27年度第1回埋蔵文化財担当職員等講習会
（富山県富山市 山田・菅野・土肥）

*国立文化財機構奈良文化財研究所

2月16～20日 文化財担当者専門研修「保存科学Ⅲ（応急処置）課程」（高橋）

6月15～19日 文化財担当者専門研修「災害痕跡調査課程」（鈴木（宏））

9月8～9月11日 文化財担当者専門研修「遺跡情報記録調査課程」（山中）

12月8～12月18日 文化財担当者専門研修「文化財写真課程」（菊池）

*北海道教育委員会

2月12日 平成26年度アイヌ文化財専門職員等研修会
（札幌市 三浦・田口・柳瀬・皆川・立田・佐藤（和）・酒井・村田・奥山・阿部）

イ 内部研修

- *平成27年度現地研修会
9月3・4日（帯広市・厚真町・千歳市 15名）
- *平成27年度発掘調査報告会
11月25日（センター研修室）

5 平成27年度刊行報告書

第320集『木古内町 新道4遺跡（4）』

北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書

第321集『木古内町 大平遺跡（2）』

北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書

第322集『厚真町 ショロマ4遺跡』

厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書

第323集『千歳市 キウス3遺跡・キウス11遺跡』

道央圏連絡道路泉郷道路工事埋蔵文化財発掘調査報告書

第324集『根室市 トーサムポロ湖周辺竪穴群（2）』

根室半島線交付金工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第325集『厚真町 イクバンドユクチセ3遺跡』

厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書

第326集『厚真町 富里3遺跡』

国営土地改良事業勇払東部（二期）地区厚幌導水路工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

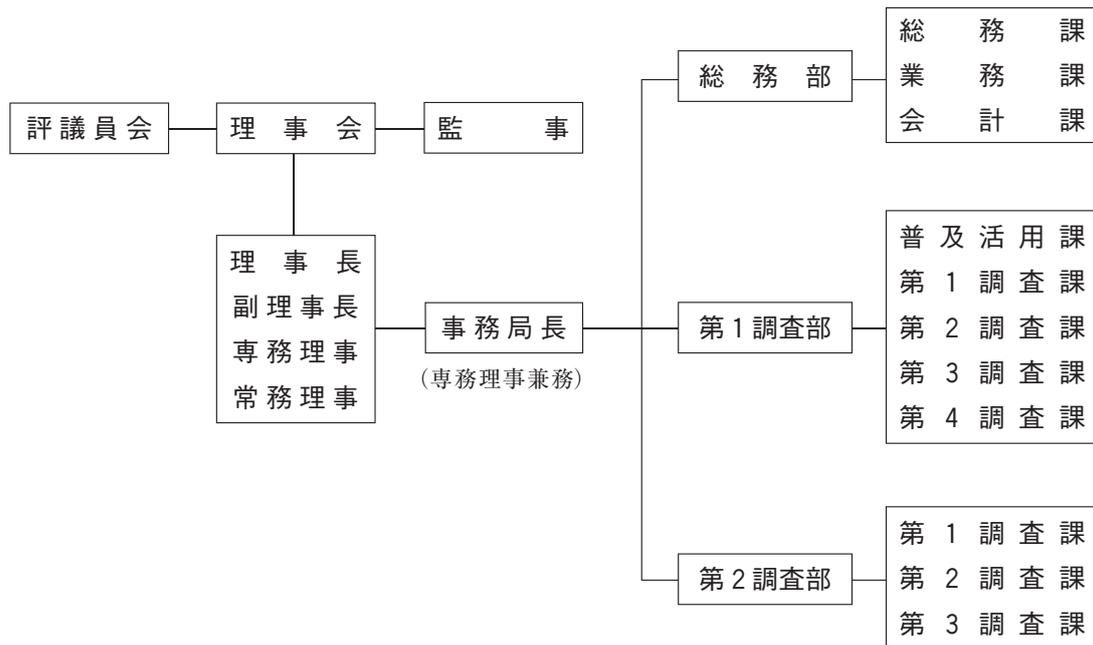
6 組織・機構

役員（平成27年6月26日現在）

理事長	越田賢一郎
副理事長	中田仁
専務理事	山田寿雄
常務理事	長沼孝
理事	白杵勲
理事	菊池俊彦
理事	坂本均
理事	関口明
理事	富田敏明子
理事	本田優子
理事	山田悟郎
監事	佐藤一夫
監事	松本昭一

評議員（平成27年6月26日現在）

評議員	遠藤龍畝
評議員	川上淳
評議員	木村方一
評議員	小西俊之彦
評議員	昌子守彦
評議員	千葉英一
評議員	鶴丸俊明
評議員	西幸隆
評議員	卷淵雄二
評議員	三原和廣
評議員	山田享彦
評議員	横山健彦



7 職 員 (平成27年6月26日現在)

事務局長 (兼務)

山 田 寿 雄

総務部

総務部長	和田基興	業務課長	菅野 聡
総務課長	葛西宏昭	主査	小笠原 学
主査	小杉 充	主査	今本 宏信
参与	前田 博	参与	佐藤 龍夫
参与	作田 千秋	参与	立野 賢次
会計課長	礪田 千秋	参与	徳田 京一
主査	中村 貴志		

第1調査部

第1調査部長(兼務)	長 沼 孝
普及活用課長	鎌田 望
主査	倉橋 直孝
主査	藤井 浩
主任	藤本 昌子
第1調査課長	田口 尚
主査	柳瀬 由佳
主査	吉田 裕吏
第2調査課長	鈴木 信
主査	菊池 慈人
主査	越田 雅司
主査	富永 勝也
主査	山中 文雄
第3調査課長	土肥 研晶
主査	袖岡 淳子
主査	芝田 直人
主査	直江 康雄
第4調査課長	皆川 洋一
主査	鈴木 宏行
主査	坂本 尚史
主査	大泰 司統
主任	谷 島 由貴

第2調査部

第2調査部長	三浦 正人
第1調査課長	中山 昭大
主査	影浦 覚
主査	福井 淳一
主査	酒井 秀治
主任	熊谷 仁志
第2調査課長	笠原 興
主査	愛場 和人
主査	末光 正卓
主査	広田 良成
嘱託	奥山 さとみ
第3調査課長	村田 大
主査	新家 水奈
主査	阿部 明義
主査	立田 理
主査	佐藤 剛

(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターへ出向)

調 査 年 報 28

平成27年度

平成28年3月18日発行

編集・発行 公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 江別市西野幌685-1
TEL 011-386-3231・FAX 011-386-3238
URL <http://www.domaibun.or.jp>
E-mail mail@domaibun.or.jp

印 刷 社会福祉法人 北海道リハビリ
〒061-1195 北広島市西の里507番地1
TEL 011-375-2116(代)・FAX 011-375-2115
